

SIGMA

sd
Quattro **H**

このたびはシグマ製品をお買い上げ頂き ありがとうございます。

カメラの機能を十分に理解していただき、正しくより良い撮影ができますように、ご使用の前にこの説明書をよくお読みになり、いつまでもご愛用頂きたくお願い申し上げます。

- 使用説明書は、必要なときにいつでも御覧いただける場所に保管して、使用の際に不明な点が生じた場合にご活用ください。
- この製品の保証の内容、およびアフターサービスについては、別紙の“保証書”を御覧ください。

著作権について

あなたが本カメラで記録した画像は、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。尚、実演や興行、展示会などのなかには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- FOVEON は、Foveon Inc.の登録商標です。X3 および X3 ロゴは、Foveon Inc.の商標です。
- SD ロゴ、SDHC ロゴ、SDXC ロゴは、SD-3C,LLC の商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、および Mac OS は、米国およびその他の国で登録された、米国 Apple Inc の商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- Eye-Fi、Eye-Fi ロゴ、および Eye-Fi connected は、Eye-Fi, Inc.の登録商標です。
- その他本冊子中の社名や商品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。
- 本製品はメニュー表示等に、株式会社リコーがデザイン制作したエレメント方式フォントを使用しています。

妨害電波自主規制について



本カメラは、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラス B 情報技術装置です。本カメラは、家庭環境で使用することを目的としていますが、本カメラをラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

カメラと付属品の確認

ご使用になる前に、以下のものがすべて揃っているかご確認ください。万一、不足しているものがある場合、お買い上げの販売店にご連絡ください。

- ① sd Quattro H カメラ本体
- ② ボディキャップ（カメラ本体に付属）
- ③ ストラップ
- ④ バッテリーパック BP-61
- ⑤ バッテリーチャージャー BC-61
- ⑥ バッテリーチャージャー用 AC ケーブル
- ⑦ USB ケーブル
- ⑧ 使用説明書（本書）
- ⑨ 保証書
- ⑩ 保証書シール

- 画像を記録するメモリーカードは付属していません。別途お買い求めください。

目 次

カメラと付属品の確認	3
目 次	4
安全上のご注意	8
取り扱い上のご注意	11
メモリーカードについて（別売）	12
操作の流れと参照項目	13
各部の名称	16
撮影時のモニター表示	18
カメラを使う準備をする	20
ストラップの取り付け方	21
LOCK スイッチについて	21
バッテリーを入れる	22
バッテリーを充電する	22
バッテリーの入れ方	24
バッテリーの取り外し方	25
レンズを取り付ける	26
レンズについて	27
言語の設定	28
日付と時間の設定	29
セットアップメニュー	31
メニューリスト	33
クイックセットメニュー	39
モニターを切替える	41
表示モードを切り替える	42
カードの入れ方と取り出し方	44
カードの初期化	46
視度の調整について	47
シャッターボタンの押し方	47
撮影した画像を確認する	48
基本撮影	49
露出のモードを選ぶ	50
露出モードの選び方	50

P プログラムオート	51
A 絞り優先オート	52
S シャッタースピード優先オート	53
M マニュアル露出	54
バルブ撮影	56
ピントを合わせる	57
オートフォーカスによるピント合わせ	57
オートフォーカスモードの設定	58
フォーカスフレームの設定	60
フォーカスロック撮影	61
顔優先 AF モード	61
半押し AF-ON	63
マニュアル（手動）でのピント合わせ	63
拡大表示によるピント合わせ	64
ドライブモードを選ぶ	65
1 コマ撮影	65
連続撮影	65
セルフタイマー撮影	66
インターバルタイマー撮影	67

応用撮影 69

ホワイトバランスの設定（ WB ）	70
ホワイトバランスの微調整	72
色温度の数値設定	73
カスタムホワイトバランスの設定	74
ISO 感度の設定	76
ISO オート範囲設定	76
画像の設定	78
画質の設定	78
画像サイズの設定	79
アスペクト比の設定	80
DC クロップモード	81
測光モード	85
AF/AEL ボタン	86
半押しリリース AEL	87
露出補正	88

オートブラケット撮影	89
SFD モード（スーパーファインディティール）	92
カラーモード	94
カラーモード詳細設定	95
カスタムブラケット	97
ホワイトバランスブラケット	97
カラーモードブラケット	98
トーンコントロール	100
カラースペース	101
縦位置情報記録	101
カスタムモード	102
設定の保存	102
設定の呼出し	103
フラッシュ撮影について	104
フラッシュモードの設定	104
調光補正	105
Eye-Fi カードを使う（Eye-Fi 連動機能）	107

画像の再生、消去 109

画像の再生	110
1 画像再生	111
拡大して表示する（拡大表示）	112
9 画像表示（コンタクトシート表示）	113
画像情報を見る	114
ヒストグラム	116
ファイルの消去	117
消去ボタンで消去する	117
消去メニューからファイルを消去する	118

再生時のその他の機能 119

ファイルをロックする	120
画像をマークする	122
画像を回転する	124
露出警告	126
OK ボタンの割り当て	127

スライドショーを見る	128
DPOF プリント	130
カメラで RAW データを現像する	131
その他の設定変更	133
ファイル番号の設定	134
ファイル名の変更	135
著作権情報の記録	135
液晶モニター表示のカスタマイズ	137
ダイヤルのカスタマイズ	141
ダイヤルの機能入換	141
操作方向の反転	142
LOCK スイッチの設定	143
LCD オフとオートパワーオフ	144
ECO モード	145
モニターの明るさを調整する	145
音声設定	145
パワーグリップ PG-41 の設定	146
設定の初期化	147
パソコン、テレビと接続する	148
パソコンと接続する	149
パソコンに画像を転送する	150
パソコンでカメラを操作する	150
テレビと接続する	151
参考資料	152
別売アクセサリ	153
家庭用電源の使い方（別売）	154
お手入れについて	156
撮像素子のクリーニングについて	157
困ったときは	159
主な仕様	162

安全上のご注意

人的損害や物的損害を未然に防止するため、ご使用の前にこの項目の内容を十分ご理解いただくをお願いします。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

各文章の **⚠** 記号は注意、もしくは警告を促す内容を示しています。

各文章の **🚫** 記号は行為を禁止する内容を示しています。

⚠警告 (バッテリー、充電器、電源について)

⚠ バッテリーはお子様の手の届かない場所に保管してください。万一飲み込んだ場合、液漏れにより健康を害するおそれがあります。ただちに医師にご相談ください。

🚫 使用説明書に指定されていないバッテリーは使用しないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

🚫 バッテリーは指定された機器以外には使用はしないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

🚫 強い衝撃や振動を与えたり、投げつけしないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

🚫 バッテリーの分解、火中、水中への投下、加熱、ショートは絶対しないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

🚫 指定されていないバッテリーを充電しないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

⚠ 万一、カメラやバッテリーから煙が出る、異常に熱くなる、焦げ臭いなどの現象が起きた場合、ヤケドに注意し速やかにバッテリーを抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。

⚠ バッテリーを処分される場合は、テープなどで接点部を絶縁してください。また、お住まいの自治体の規則に従ってください。

⚠ 長期間使用しない場合、バッテリー室からバッテリーを取り出してください。長期間放置しますと液漏れによるカメラの破損の原因となります。

⚠ AC 電源を使用するときは、必ず専用の AC アダプターを使用してください。感電、発火の原因となります。

 専用の AC アダプターは、他の機器に使用しないでください。発熱、発火、感電、けがの原因となります。

 AC アダプターを使用中に煙や異臭、異音が発生した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります。

 水や異物が AC アダプター内に侵入した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります。

 改造や分解はしないでください。火災や感電の原因になります。

 コードの上に重たい物をのせたり、コードを引いたり曲げたり、また熱したりしないでください。コードの損傷、火災や感電の原因になります。

 指定(AC100V-240V)された以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になります。

 電源コードは、指定されているものを使用してください。

警告 (カメラについて)

 プロパンガス、ガソリンなどの引火性のガスが発生する場所では、火災、爆発のおそれがありますので、絶対に使用しないでください。

 カメラはお子様の手の届かない場所に保管してください。誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

 カメラは自分で分解、改造しないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。

 落下等で破損した場合、内部に手を触れないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。バッテリーを抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。

 レンズ単体で太陽を見ないでください。失明の原因となります。

 水中に落としたり内部に水が入った場合、バッテリーを抜いてご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。そのまま放置しますと火災や感電の原因となります。

 カメラ本体のコネクター部に、金属片等を差し込まないでください。感電、発熱、発火の原因となります。

 フラッシュを人の目に近づけて発光しないでください。視力障害の原因となります。特に乳幼児を撮影する場合は、1m 以上離れてください。



フラッシュの発光部を手で覆ったまま発光しないでください。ヤケドの原因となります。

注意（充電器、電源について）



充電器や AC アダプターをコンセントから抜く場合、コードを引っ張らないでください。コードを痛め、火災や感電の原因となります。常にプラグを持ってコンセントから引き抜いてください。



充電器や AC アダプターを布やクッションなどで覆い被さないでください。発熱し、本体を変形させたりし、火災の原因となります。



使用しない場合は、安全の為にコンセントを抜いてください。



充電器や AC アダプターを掃除する場合は、安全の為にコンセントから抜いて行ってください。

注意（カメラについて）



レンズキャップをはずしたまま放置しないでください。レンズに長時間日光があたった場合、カメラの故障や火災の原因となることがあります。



ファインダーに直接日光を当てないでください。内部のディスプレイが損傷することがあります。



三脚にカメラを取り付けたまま移動しないでください。転倒したりぶついたりして、けがの原因となることがあります。



カメラをぬれた手でさわらないでください。感電することがあります。



カメラを熱いものの近くや、日中の車内に放置しないでください。カメラ自体が高温になり、ヤケドの原因となることがあります。



液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片にご注意ください。ケガの原因となります。また、破損により液晶モニター内部の液体が流出し、以下のような状況になった場合、それぞれの対処を行ってください。

- 液体が衣服や皮膚に付着したときは、ただちに石鹸で洗い流してください。
- 液体が目に入ったときは、ただちにきれいな水で 15 分以上洗浄し、医師の診療を受けてください。
- 液体を飲み込んだときは、大量の水を飲んで吐き出し、医師の診療を受けてください。

取り扱い上のご注意

ご使用前に

結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には、事前のチェックや試し撮りをして、カメラが正常に作動するか必ず確認してください。撮影に要した諸経費、および撮影により得べかりし利益の損失等については保証致しかねます。

長期間の旅行、野外撮影、寒冷地での撮影、またはたくさんの写真を撮られるようなときなどには、満充電のバッテリーを多めに用意することをおすすめします。

ご使用の環境や注意点について

- カメラは精密機械です。ぶつけたり、落としたりしないでください。
- このカメラは防塵・防滴構造となっており、小雨などでの使用は可能ですが、防水構造ではありません。水辺などでの使用では、大量の水が掛らないように注意してください。水がカメラ内部に入り込むと、大きな故障の原因となり、修理不能になる場合があります。
- ほこりの多い場所や高温多湿の場所（特に日中の車内等）へ長時間放置しないでください。
- 寒い場所から温かい室内に持ち込む場合、カメラに水滴が生じます。カメラをバックやビニール袋に入れて周囲の温度になじませてからご使用ください。
- このカメラの使用可能温度は約 0℃～+40℃、使用可能湿度は約 85%以下（結露しないこと）です。0℃以下になるとバッテリーの性能低下が影響します。寒い場所では予備のバッテリーを用意し、ポケットに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。
- 静電気や磁気の影響により、まれにカメラが作動しなくなることがあります。このようなときは、一旦バッテリーを取り出して再度装填し直してください。また、強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しない場合があります。

長時間撮影の注意点について

- カメラの表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 長時間連続して撮影すると、カメラの温度が上昇し、警告マーク（)が表示されます。さらに温度が上昇すると、警告メッセージが表示され、自動的にカメラの電源が切れます。

- カメラの電源が切れた場合は、カメラの温度を充分下げるために、10 分以上放置してください。
- カメラの温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。警告マーク (⚠) が表示されたら、カメラの電源を切り、温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。

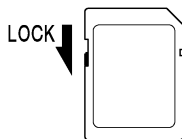
メモリーカードについて（別売）

本カメラに使用できるメモリーカードは SD メモリーカード、SDHC メモリーカード*、SDXC メモリーカード* です。

* UHS-1 規格のメモリーカードも使用できます。

- 本書では SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードを「カード」と記載しています。
- 本カメラには SDHC メモリーカード、もしくは SDXC メモリーカードのご使用をおすすめします。

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードはカードへの書き込みやフォーマットを禁止できる書き込み禁止スイッチを備えています。「LOCK」側にしておくと、ファイルの誤消去を防ぐことができます。

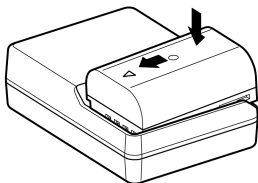


- Wi-Fi（無線 LAN）通信機能をもった「Eye-Fi カード」もご使用になれます。（P.107）
- カードを直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばに放置しないでください。
- カードを温度の高い場所、湿度の高い場所、静電気の起こりやすい場所や電磁波が発生している場所に保管しないでください。
- カードの詳細な取扱い方法については、それぞれの使用説明書の内容に従ってください。
- カメラの「カードの初期化」やパソコンの「削除」の機能では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。廃棄／譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

操作の流れと参照項目

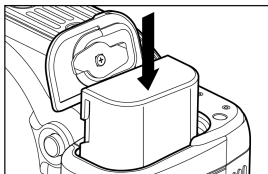
sd Quattro H にはたくさんの機能がありますが、このページでおおよその流れをつかんで、各項目で操作の詳細をマスターしてください。

カメラを使う準備をします

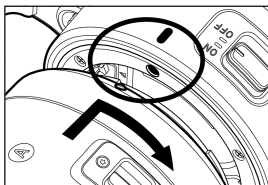


バッテリーを充電します (P.22)

付属のバッテリーを専用充電器で充電します。



バッテリーを入れます (P.24)



レンズを取り付けます (P.26)

言語 / Language		
English	简体中文	Português
日本語	繁體中文	Dansk
Deutsch	한국어	Svenska
Français	Русский	Norsk
Español	Nederlands	Suomi
Italiano	Polski	
決定 MENU キャンセル		

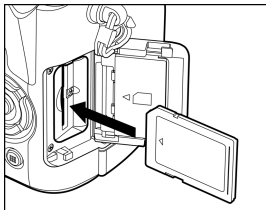
言語を設定します (P.28)

メニュー画面の文字が、ご使用になりたい言語と異なる場合は、言語を変更します。



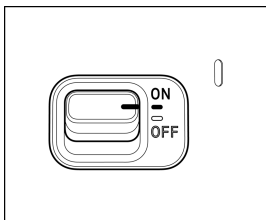
日付と時間を設定します (P.29)

ファイルに撮影日時が正しく記録されるように、日付と時間の設定をします。



カードを入れます (P.44)

撮影します



電源を入れます

電源スイッチを ON にします。



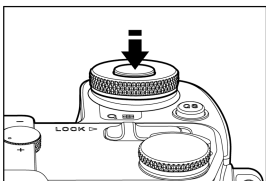
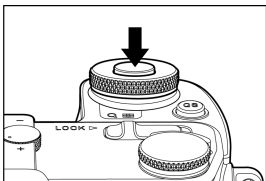
露出のモードを選びます (P.50)

まずは **P** (プログラムオートモード) にセットしましょう。



ピントを合わせます (P.57)

液晶モニターで構図を決めてシャッターボタンを半押しします。



撮影します

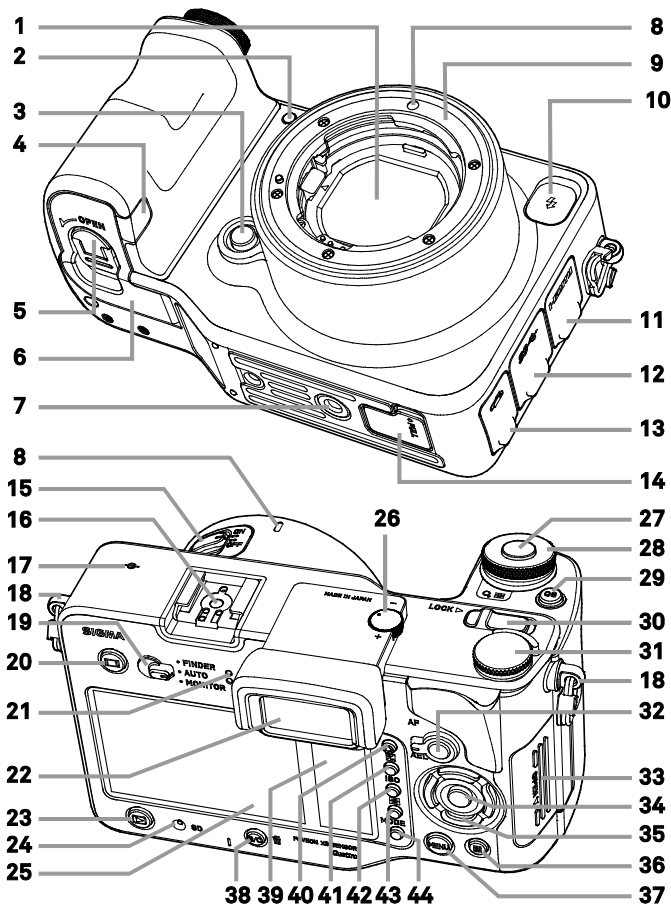
さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。



撮影した画像を確認します (P.48)

画像が2秒間表示されます。

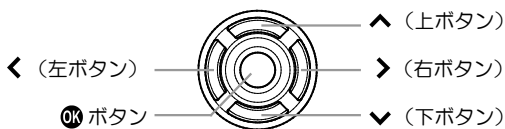
各部の名称



1	ダストプロテクター	23	 (再生) ボタン
2	補助光窓	24	アクセスランプ
3	レンズ着脱ボタン	25	メインモニター
4	DC コネクターカバー	26	視度補正ダイヤル
5	バッテリー蓋開閉つまみ	27	シャッターボタン
6	バッテリー室ドア	28	前ダイヤル
7	三脚ねじ穴	29	QS (クイックセット) ボタン
8	レンズ取付指標	30	LOCK (ロック) スイッチ
9	マウント	31	後ダイヤル
10	シンクロ端子	32	AF/AEL ボタン・レバー
11	HDMI 端子 (ミニ HDMI タイプ C)	33	SD カードドア
12	USB 端子 (USB3.0・マイクロ B)	34	 (OK) ボタン
13	ケーブルリリース端子	35	セレクトー
14	パワーグリップ用接点カバー	36	 (フォーカスフレーム) ボタン
15	電源スイッチ	37	MENU (メニュー)ボタン
16	ホットシュー	38	S/C (AF モード) ボタン /  (消去) ボタン
17	撮像素子位置マーク	39	サブモニター
18	ストラップ取付金具	40	 サブモニター消点灯ボタン
19	モニター切換レバー	41	 (露出補正) ボタン
20	 (ディスプレイ) ボタン	42	ISO (ISO 感度) ボタン
21	スピーカー	43	 (測光モード) ボタン
22	ファインダー	44	MODE (撮影モード) ボタン

セレクトター (35) について

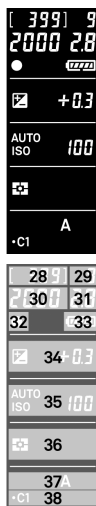
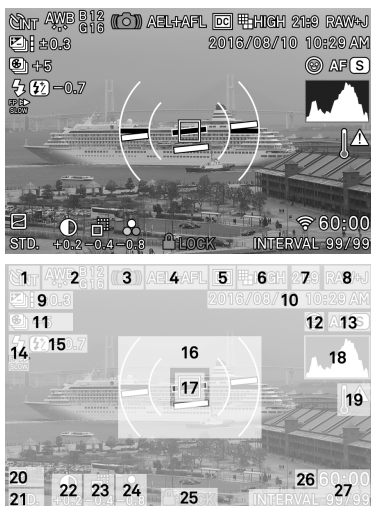
本書ではセレクトターの各ポジションを $\wedge$ / $\vee$ / $\lessgtr$ / $\gtrless$ で表しています。



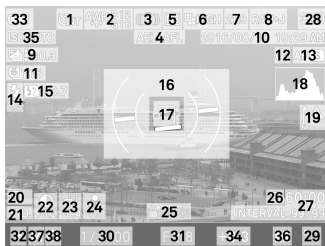
- 上下で操作する場合は $\diamond$ 、左右で操作する場合は $\lessgtr$ 、上下左右で操作する場合は $\diamond\lessgtr$ で表しています。

撮影時のモニター表示

メインモニター / サブモニター



ファインダー



1	ドライブモード	20	トーンコントロール
2	ホワイトバランス フィルター効果 (モノクローム時)	21	カラーモード 調色 (モノクローム時)
3	手ぶれ警告マーク	22	コントラスト ※
4	AE ロック/AF ロック ※	23	シャープネス ※
5	DC クロップモード ※	24	彩度 ※
6	画像サイズ	25	ロック中表示 ※
7	アスペクト比	26	Eye-fi 通信マーク ※
8	画質	27	インターバル撮影 ※
9	オートブラケット/SFD モード ※	28	撮影可能枚数
10	日付時刻 ※	29	バッファ残量
11	カスタムブラケット ※	30	シャッタースピード
12	顔優先 AF モード ※	31	絞り値
13	フォーカスモード	32	合焦表示
14	フラッシュモード ※	33	バッテリー残量表示
15	調光補正值 ※	34	露出補正值/露出メーター
16	水準器表示 ※	35	ISO 感度
17	フォーカスフレーム	36	測光モード
18	ヒストグラム ※	37	露出モード
19	温度上昇警告マーク	38	カスタムモード ※

※設定時のみ表示されます。



静止画撮影直後、カメラ内で画像処理中に表示されるアイコンです。
このアイコンの表示されている間は、次の撮影やボタンによる操作が
できません。

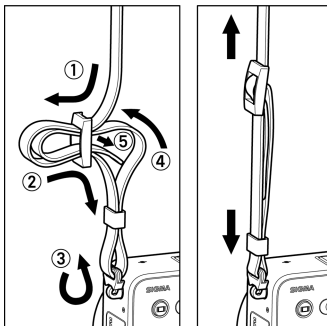


スローシャッター時、露光中であることを示すアイコンです。

カメラを使う準備をする

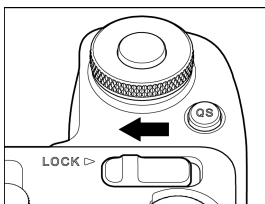
撮影をはじめる前に、必要な準備やチェックする項目について説明します。

ストラップの取り付け方



付属のストラップの両端を一旦ほどいて、図のように左右のストラップ取付け金具に通して取り付けます。

LOCKスイッチについて



sd Quattro H は、ボタン操作をロックすることにより、誤操作を気にせず撮影に集中できる LOCK スイッチを設けています。カメラの設定を行うときには LOCK スイッチを解除してください。



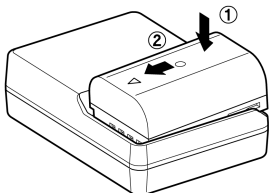
ロック中は画面下側に  LOCK アイコンが表示されます。

- LOCK スイッチによってロックできる内容を好みに合わせて変更することができます。詳しくは P.143 「**LOCK スイッチの設定**」の項目をご覧ください。

バッテリーを入れる

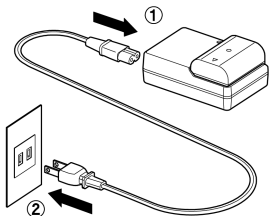
sd Quattro H は、付属の専用リチウムイオン充電電池「バッテリーパック BP-61」（以降、バッテリーと表記）を使用します。お買い上げ時にバッテリーは充電されていません。付属の専用充電器「バッテリーチャージャー BC-61」（以降、充電器と表記）で充電してからお使いください。

バッテリーを充電する



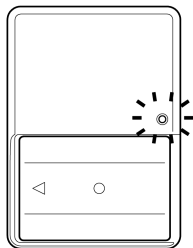
1

図のように、バッテリーをスライドさせて充電器に取り付けます。



2

電源コードを充電器の電源ソケットとコンセントに差し込みます。



- 充電中は緑色の充電ランプが点灯します。
- 充電時間は約 220 分です。
- 充電時間は周囲の温度や、充電状態によって異なります。

3

充電ランプが消えたら充電完了です。

バッテリーを外し、充電器をコンセントから外してください。

- バッテリーの充電は、なるべくご使用の直前にされることをおすすめします。日数がたちますと、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 充電しても、撮影可能枚数が極端に少なくなった場合は、バッテリーの寿命が考えられます。新しい充電地をお買い求めください。

- この製品は、**充電式リチウムイオン電池**（バッテリー）を使用しています。ご使用済のバッテリーは貴重な資源となります。端子にテープを貼りつけて絶縁してからリサイクル協力店にお持ちください。

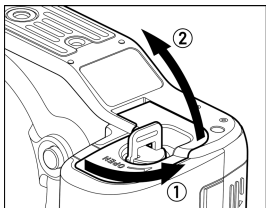
詳細は、一般社団法人 JBRC のホームページをご参照ください。

ホームページアドレス：<http://www.jbrc.com/>



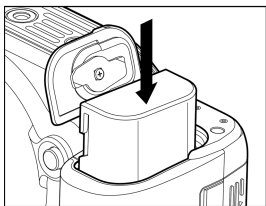
- カメラを廃棄する際には、P.24「**バッテリーの取り出し方**」の手順に従い、カメラからバッテリーを取り出し、バッテリーのリサイクルにご協力ください。

バッテリーの入れ方



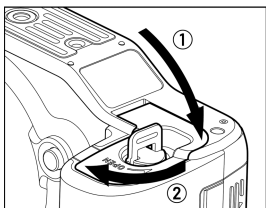
1

電源スイッチが **OFF** になっているのを確認し、図のようにバッテリー蓋開閉つまみを回して、ふたを開けます。



2

バッテリーがロックされるまで押し込んでください。



3

ふたを閉じ、図のようにバッテリー蓋開閉つまみを回してロックします。

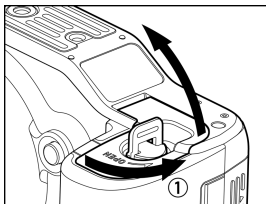
バッテリーのチェック

サブモニターとファインダーにバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。カメラの使用前及び使用中は、常にバッテリーアイコンをチェックするよう心がけてください。



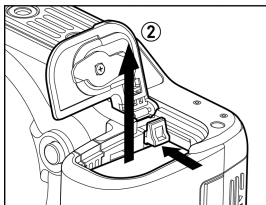
サブモニター	ファインダー	
		バッテリーの残量が殆どなく、まもなくカメラが作動しなくなります。満充電のバッテリーと交換、またはバッテリーを充電してください。
	 (赤色)	バッテリーの残量がなく、カメラが作動しません。満充電のバッテリーと交換、またはバッテリーを充電してください。
—		AC アダプターを接続して、家庭用電源で作動しています。(P.154 参照)

バッテリーの取り外し方



1

電源スイッチが **OFF** になっているのを確認し、図のようにバッテリー蓋開閉つまみを回して、ふたを開けます。



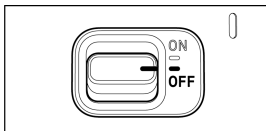
2

バッテリーロックレバーを図のようにスライドさせて、バッテリーを取り出します。

警告 !!

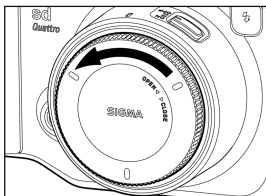
- アクセスランプが点灯または点滅しているときは、絶対にバッテリーやカードを取り出さないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

レンズを取り付ける



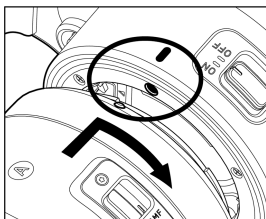
1

電源スイッチを **OFF** にします。



2

レンズのリヤキャップと、ボディのマウントキャップを外します。

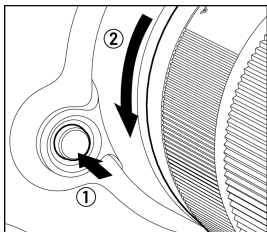


3

カメラのマウントにあるレンズ取り付け指標とレンズ側の指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを右回りにカチッと音がしてロックされるまで回します。

ご注意 !!

- 取り付けのときにレンズ着脱ボタンを押していると、ロックが不完全になる場合があります。この状態ではレンズが連動しないばかりか、レンズがボディから脱落する恐れがあります。必ずロックがされていることを確認してください。
- マウント部にセットされているガラス（ダストプロテクター）は、特にキズが付きやすくなっています。指などで直接触れないようにご注意ください。ゴミやほこりなどがある場合は、「**お手入れについて**」（P.156）の項目をご覧ください。



レンズを取り外すときは、レンズ着脱ボタンを押しながら、左回りに止まるまで回し、静かに引き抜いてください。

レンズについて

sd Quattro H はシグマ SA マウントを採用しています。ご使用になれるレンズは、シグマ SA 用交換レンズです。

- レンズの発売時期などにより、レンズのファームウェアの更新が必要な場合があります。またはカメラのファームウェアの更新が必要な場合があります。対応レンズの最新情報につきましては、弊社 WEB サイトにてご確認ください。

<http://www.sigma-global.com/>

- sd Quattro H は APS-H サイズの撮像素子を搭載しています。撮像素子の性能をフルに活かすには、DG レンズ (35mm フルサイズ用) をご使用ください。DC レンズ (APS-C 用) もご使用になれますが、撮像素子の記録範囲を限定した DC クロップモードでの撮影となります。

ご注意 !!

- レンズのマウント面には、電気情報接点等、レンズとカメラの連動装置があります。キズや汚れが付くと誤動作や故障の原因となります。リヤキャップを外したまま、レンズのマウント面を下に置かないでください。

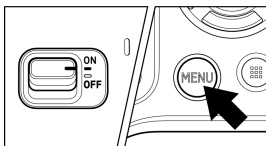
言語の設定

液晶モニターに表示されるメニューやメッセージの言語は、英語が初期設定となっています。セットアップメニューの「**Language / 言語**」で日本語に設定を変更してください。

お買い上げの際には…

初めてカメラの電源を入れた際、液晶画面に言語の設定画面が表示されます。◀▶ ボタンでご希望の言語を選択し、OK ボタンを押して確定してください。

その後、日付設定画面に切り替わりますので、29 ページ「**日付と時間の設定**」の 5 番以降の説明に従い、日付と時間を設定してください。



1

カメラの電源を入れます。

2

本体背面の **MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開きます。(P.31 参照)

3

前ダイヤルか後ダイヤルを回して「🔧 カメラ設定(4)」を選びます。

4

◀▶ ボタンを押して、「**Language / 言語**」を選びます。

5

➤ ボタンか OK ボタンを押して、言語設定画面を開きます。

6

◀▶ ボタンで「**日本語**」を選びます。言語は 17 種から選べます。(次ページ表参照)

7

確定する場合は、OK ボタンを、変更しない場合は、**MENU** ボタンを押します。



設定できる言語

English	英語（初期設定）
日本語	日本語
Deutsch	ドイツ語
Français	フランス語
Español	スペイン語
Italiano	イタリア語
简体中文	中国語（簡体字）
繁體中文	中国語（繁体字）
한국어	韓国語

Русский	ロシア語
Nederlands	オランダ語
Polski	ポーランド語
Português	ポルトガル語
Dansk	デンマーク語
Svenska	スウェーデン語
Norsk	ノルウェー語
Suomi	フィンランド語

日付と時間の設定



初めて使用する場合、あるいは長期間使用していなかった場合は、日付と時間を正しく設定してください。

1

カメラの電源を入れます。

2

本体背面の **MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（P.31 参照）

3

前ダイヤルか後ダイヤルを回して「**カメラ設定(4)**」を選びます。

4

◇ ボタンを押して、「**日付 / 時刻**」を選びます。

5

➤ ボタンか **OK** ボタンを押して、日付 / 時刻設定画面を開きます。

6

再度 ➤ ボタンか **OK** ボタンを押すと、日付 / 時刻が設定できます。

7

◀▶ ボタンで各項目を選び、◀▶ ボタンで設定します。

8

OK ボタンを押して確定します。変更しない場合は、MENU ボタンを押します。

ご注意 !!

- カメラの内蔵時計は、カメラ動作用バッテリーから内蔵の充電電池に充電された電気で動いています。長期間カメラにバッテリーが入っていない状態で、充電がされていない場合は、内蔵時計を再設定する必要があります。

年月日の順序を変えるには

日付表示は、年月日、月日年、日月年の3種類から選べます。



1

◀▶ ボタンで「日付設定」を選び、▶ ボタンか OK ボタンを押してサブメニューを開きます。

2

◀▶ ボタンで希望の表示順序を選び、▶ ボタンか OK ボタンを押して確定します。

24 時間表示 / 12 時間表示(AM/PM)を切り替えるには



1

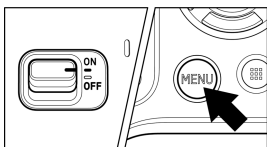
◀▶ ボタンで「時間設定」を選び、▶ ボタンか OK ボタンを押してサブメニューを開きます。

2

◀▶ ボタンで希望の表示方法を選び、▶ ボタンか OK ボタンを押して確定します。

セットアップメニュー

カメラ操作の基本となるセットアップメニューについて説明します。セットアップメニュー画面から、カメラのこまかい機能や、カメラの基本状態を設定することができます。



タブエリア



セットアップメニューを開く

本体背面の **MENU** ボタンを押します。

再度 **MENU** ボタンを押すと、セットアップメニューが閉じ撮影状態に戻ります。
(画像の再生中 (P.110) では、元の表示画像に戻ります)

他のページに移動する

前ダイヤルか後ダイヤルを回すごとに、隣のページに移動できます。

(タブエリアが選択されているときは、**◀▶** ボタンを押してもとなりのページに移動できます。)

セットアップメニューでは：

◊ ボタンを押して、希望の項目を選びます。

➤ ボタンか **OK** ボタンを押すと、サブメニューが開きます。

(項目によっては、専用画面が開いたり、確認メッセージが表示されるものがあります。)

サブメニューでは：

◊ ボタンを押して、希望のオプションを選びます。

➤ ボタンか **OK** ボタンで確定します。

(**◀** ボタンを押すと、オプションが変更されずにサブメニューが閉じます。)

- セットアップメニューは以下の3つのグループに分類されています。



📷 撮影設定（青いタブ）

撮影に関する機能を設定するメニューです。撮影モード時に **MENU** ボタンを押すと、「📷 撮影設定」メニューが開きます。



📺 再生設定（赤いタブ）

画像の再生に関する機能を設定するメニューです。DPOF 設定などプリントに関する設定も再生設定メニューに含まれます。画像の再生中に **MENU** ボタンを押すと、「📺 再生設定」メニューが開きます。



🔧 カメラ設定（黄色のタブ）

日付の設定や言語の選択など、カメラの基本状態を設定するメニューです。**MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開き、前ダイヤルか後ダイヤルを回して「🔧 カメラ設定」メニューに移動します。

メモ

- カメラの状態によって、設定することができない項目やオプションは、グレーで表示されます。

メニューリスト

設定項目の詳細は、各該当ページをご覧ください。

撮影設定

	項目	設定内容	ページ
 (1)	ISO 感度ステップ	ISO 感度の設定ステップ幅を選択できます。	77
	ISO オート範囲設定	ISO オートにおける ISO 感度の下限、および上限を設定することができます。	76
	ドライブモード	セルフタイマーなどのカメラの動作モードを設定します。	65
	DC クロップモード	撮像素子の記録範囲を設定します。	81

	項目	設定内容	ページ
 (2)	オートブラケット	オートブラケット撮影の段数と順序を設定します。	89
	カスタムブラケット	ホワイトバランスやカラーモードのブラケット撮影を設定することができます。	97
	SFD モード	複数枚撮影した画像を合成して、ディテールが繊細な写真を生成できる SFD モードを設定できます。	92
	フラッシュ	フラッシュ撮影に関するモードの設定と調光補正の設定を行います。	104

	項目	設定内容	ページ
 (3)	ホワイトバランス	撮影時の光源の種類に応じて、ホワイトバランスのモードを選択します。	70
	画質	記録する画像の画質を設定します。	78
	画像サイズ	記録する画像のサイズ（記録画素数）の設定をします。	79

	項目	設定内容	ページ
 (3)	アスペクト比	画像のアスペクト比（横縦比）を設定します。	80
	カラーモード	各撮影シーンに最適な色調、コントラストなどを調整したカラーモードを選択できます。	94
	カラースペース	色空間の規格である「sRGB」か、「Adobe RGB」を選択します。	101

	項目	設定内容	ページ
 (4)	トーンコントロール	自然な階調の画像が得られる機能「トーンコントロール」の有効（強・弱）、無効を設定します。	100
	縦位置情報記録	撮影時に縦位置撮影情報を画像ファイルに記録をするか、しないかを設定します。	101
	撮影画像確認	撮影後、液晶モニターに自動的に表示される確認画像の表示時間を設定します。	48
	M モード時モニター露出反映	M モード時、実際の露出の明るさを画面に反映するか、しないかを設定をします。	55
	ダイヤル露出補正	露出補正を行う際に、  ボタンを使うか、使わないかを設定します。	89
	ダイヤル機能入換	各撮影モードでの露出設定・露出補正を行うダイヤルの割当てを設定します。	141

	項目	設定内容	ページ
 (5)	操作方向の反転	前後ダイヤルの回転方向を反転するか、しないかを設定します。	142
	AEL ボタンの機能	AF/AEL ボタン（レバーがAEL ポジションのとき）に割当てる機能の選択を行います。	86
	AF ボタンの機能	AF/AEL ボタン（レバーがAF ポジションのとき）に割当てる機能の選択を行います。	86

	項目	設定内容	ページ
 (5)	半押し AEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出を固定するか、しないかを設定します。	87
	半押し AF-ON	シャッターボタンを半押ししたときに、AF が動作するか、しないかを設定します。	63

	項目	設定内容	ページ
 (6)	フォーカスピーキング	ピントがあった位置を強調する表示を設定します。	63
	AF  時の動作	シャッターボタンを押し込んだときに、即座にシャッターが切れるか、ピントが合ってからシャッターが切れるかを設定します。	59
	AF  時の動作		
	内蔵 AF 補助光	AF 撮影時に AF 補助光を発光するか、しないかを設定します。	59
	顔優先 AF	通常の AF モードか、顔優先 AF モードにするかを選択します。	61

再生設定

	項目	設定内容	ページ
 (1)	ロック	ファイルのロック、もしくはロック解除を行います。	120
	マーク	画像ファイルのマーク、もしくはマーク解除を行います。	122
	回転	画像の表示方向の変更を行います。	124
	消去	ファイルの消去を行います。	117
	スライドショー	画像ファイルのスライドショー（連続自動再生）、およびスライドショーの詳細を設定します。	128
	DPOF	カード内のプリントしたい画像の指定や枚数を設定します。	130

	項目	設定内容	ページ
 (2)	RAW 現像	RAW 形式で記録された画像から JPEG 形式の画像を作成します。	131
	露出警告	再生画像に露出オーバーの警告を表示するか、しないかを設定します。	126
	OK ボタンの機能	 ボタンに割り当てる機能の設定をします。	127
	回転表示	縦位置情報が記録された画像を回転して表示するか、しないかを設定します。	—

カメラ設定

	項目	設定内容	ページ
 (1)	カスタムモードの登録	カスタムモード (C1・C2・C3) の登録を行います。	102
	QS カスタム	クイックセットメニューに割り当てる項目を設定します。	40
	LOCK 中の動作	LOCK スイッチによってロックできる内容を好みに合わせて変更することができます。	143
	モニター  モード設定	メインモニターの 6 つのディスプレイモードのオン / オフと、内容の詳細を設定します。	137
	ファインダー  モード設定	ファインダーの 4 つのディスプレイモードのオン / オフと、内容の詳細を設定します。	137
	フレームの表示	撮影画面 (3:2 以外のアスペクト比設定時) のフレームの表示状態を設定します。	80

	項目	設定内容	ページ
 (2)	音声	各種電子音の有無や音量を設定します。	145
	水準器調整	水準器の角度のずれを調整します。	141
	ファイル名	撮影画像のファイル名を設定します。	135
	ファイル番号	新しいカードをカメラに入れたとき、もしくはカードを初期化した後などの、ファイル番号の付き方を設定します。	134
	ECO モード	バッテリーの消耗を抑える ECO モードにするか、しないかを設定します。	145
	拡張モード	パルプ撮影の露光可能時間を拡張するか、しないかの設定をします。	56

	項目	設定内容	ページ
 (3)	LCD の明るさ	液晶モニターのバックライトの明るさを設定します。	141
	LCD オフ	操作をしないときに、自動的に液晶のバックライトが消灯するまでの時間を設定します。	145
	オートパワーオフ	操作をしないときに、自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	144
	Eye-Fi 設定	Wi-Fi（無線 LAN）通信機能をもった Eye-Fi カード（市販品）の設定をします。	107
	PG-41 設定	パワーグリップ PG-41（別売）の動作に関する設定や、FUNC ボタンの機能の割り当てを設定します。	146

	項目	設定内容	ページ
 (4)	USB モード	カードに記録された画像をパソコンに転送する際は「 マストストレージ 」、 SIGMA Capture Pro をインストールしたパソコンからカメラを操作する際は「 カメラコントロール 」を選択します。	149
	カードなしリリース	カメラにカードが入っていない状態でシャッターボタンを押したときに、シャッターが切れるか、切れないかの設定をします。	47
	カードの初期化	カードを初期化します。(カード内のすべてのファイルが消去されます。)	46
	日付 / 時刻	画像ファイルに記録される日付と時間を設定します。	29
	言語 / Language	メニューやメッセージで表示される言語を選択します。	28

	項目	設定内容	ページ
 (5)	著作権情報	著作権情報の入力、および記録をするか、しないかを設定をします。	135
	情報	カメラのファームウェアバージョン、モデル名、シリアル番号の情報と、認証マーク※ を表示します。	—
	ファームウェアの更新	カードから最新ファームウェアのアップデートを行います。	—
	設定のリセット	各設定を初期設定に戻します。	147

※ 認証マークについて

このカメラが対応しているその他の認証マークは、カメラ底面、化粧箱、使用説明書等に表示されています。

クイックセットメニュー

撮影時に頻繁に使う以下の項目は、**QS** ボタンを押すことにより、簡単に設定することができます。

クイックセットメニュー画面（初期設定）



撮影モード中に **QS** ボタンを押すと、クイックセットメニュー画面が表示されます。

例えば、画質を **RAW** に変更したい場合



3

前ダイヤルか後ダイヤルを回して「**RAW**」を表示させます。

4

OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして、撮影状態に戻ります。

ご注意 !!

- 設定できない項目はグレーで表示され、ダイヤルを回してもオプションを変更できません。

クイックセットメニューに割り当てる項目を変更することができます。

割り当てできる項目は以下の通りです。

露出補正 (P.88)	スローシンクロ (P.105)
ISO 感度 (P.76)	ホワイトバランス (P.70)
測光モード (P.85)	画質 (P.78)
撮影モード (P.50)	画像サイズ (P.79)
ドライブモード (P.65)	アスペクト比 (P.80)
DC クロップモード (P.81)	カラーモード (P.94)
オートブラケットずらし量 (P.89)	トーンコントロール (P.100)
カスタムブラケット (P.97)	フォーカスピーキング (P.63)
調光補正 (P.105)	メインモニターの明るさ (P.145)
赤目発光 (P.104)	サブモニターの明るさ (P.145)
後幕シンクロ (P.104)	ファインダーの明るさ (P.145)
FP 発光 (P.104)	

「🔍 カメラ設定」(P.31) → 「**QS カスタム**」より、メニューに割り当てる項目を設定してください。



1

「**QS カスタム設定**」画面で <◇> ボタンを押して、割り当てを変更したいポジションを選び、**OK** ボタンを押して確定します。

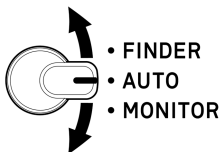
2

画面下部のリストから、割り当てたい項目を <◇> ボタンを押して選び、**OK** ボタンを押して確定します。

3

一通り割り当てたい項目の設定が完了したら、**MENU** ボタンを押して、「**QS カスタム設定**」画面を閉じます。

モニターを切換える



sd Quattro H はファインダー（電子式ビューファインダー）とメインモニターを装備しています。
モニター切換レバーで、表示させたいモニターを選ぶことができます。

FINDER	ファインダーのみ表示します。
AUTO	ファインダーを覗いたときに、自動的にメインモニター表示からファインダー表示に切り換わります。
MONITOR	メインモニターのみ表示します。 ファインダーを覗いてもファインダー内の液晶は表示されません。

サブモニターについて

ファインダー内の液晶が表示されているとき、サブモニターは自動で消灯します。

- サブモニターは必要に応じ、 ボタンで消点灯させることができます。（ファインダー内の液晶が表示されているときは点灯させることができません。）

ご注意 !!

- ファインダーに直接日光を当てないでください。内部のディスプレイが損傷することがあります。
- 目以外のものを近づけてもセンサーが反応し、ファインダー内の液晶が表示されることがあります。
- 後方からの強い光などでセンサーが反応し、モニター表示の切換えに誤動作が生じる場合があります。

表示モードを切り替える



□□ ボタンを押すと、液晶モニターの表示を切り替えることができます。

- ファインダーを表示させているときに□□ ボタンを押すと、ファインダー内の表示モードが切り替わります。
- メインモニターを表示させているときに□□ ボタンを押すと、メインモニターの表示モードが切り替わります。

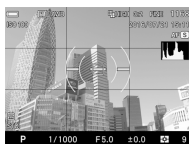
ファインダー（撮影モード）（初期設定時）



カスタム 1



カスタム 2



カスタム 3

メインモニター（撮影モード）（初期設定時）



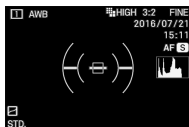
カスタム 1



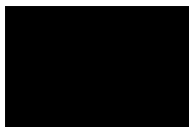
カスタム 2



カスタム 3



ビューファインダーモード



LCD オフモード

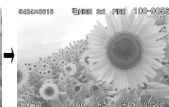
- 各アイコンの意味は、P.15「撮影時のモニターの表示」を参照してください。

- ビューファインダーモードは、撮影情報のみを表示します。
- 「カスタム」は、表示させたい情報をカスタマイズすることができます (P.137 参照)。
- 文字やアイコンの大きさを変更することができます (P.139 参照)。

(再生モード)



アイコン表示
(撮影日時表示)
(P.111)



アイコン表示
(撮影データ表示)
(P.111)



1/2 画像情報表示
(P.114)



アイコン非表示



2/2 著作権情報表示
(P.115)

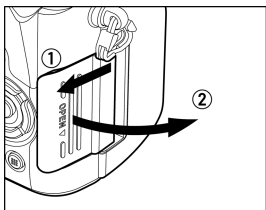
ご注意 !!

- 再生モード時は、ファインダーとメインモニターで異なる表示モードに設定することはできません。

カードの入れ方と取り出し方

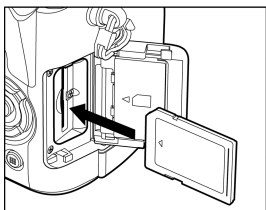
sd Quattro H は、データの記録にメモリーカードが必要です。使用できるメモリーカードは SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードです。

カードの入れ方



1

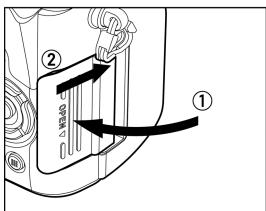
電源が OFF になっているのを確認し、図のように SD カードドアを開きます。



2

SD カードドア裏面の表示に従ってカードを入れます。

カチッと音がするまでカードを押し込んでください。



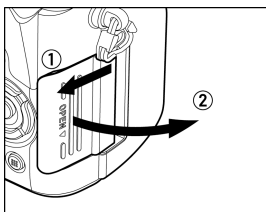
3

SD カードドアを閉じます。

メモ

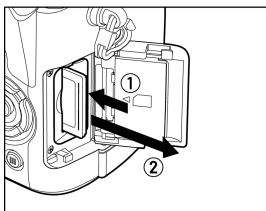
- 必要に応じて使用前にカードを初期化してください。（P.46 参照）

カードの取り出し方



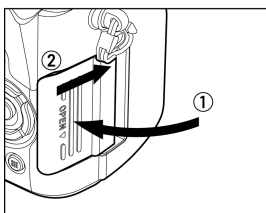
1

電源が OFF になっているのを確認し、図のように SD カードドアを開きます。



2

カードをカチッと音がするまで押し込み、まっすぐ引き抜いてください。



3

SD カードドアを閉じます。

警告 !!

- アクセスランプが点灯・点滅しているときは、絶対にバッテリーやカードを取り出さないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

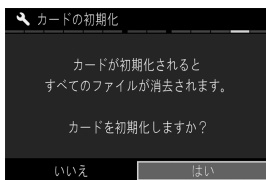
メモ

- 電源を OFF にしても、カードへのアクセスが終了するまでは、アクセスランプが点灯・点滅し、電源が切れません。

カードの初期化

新しいカードは使用する前に初期化しなければなりません。また、他のファイルフォーマットで初期化されている場合や、データが壊れていたり、カードに異常がある場合も使用前に初期化する必要があります。

「 カメラ設定」(P.31) → 「カードの初期化」より初期化を行います。



「カードの初期化」画面で  ボタンを押し、「はい」を選び  ボタンを押します。

初期化を中止したい場合は  ボタンを押して「いいえ」を選び  ボタンを押します。

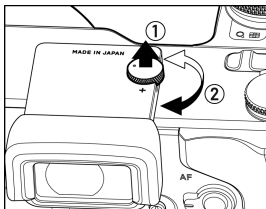
警告!!

- 初期化はロックされた画像とそれ以外のファイルもすべて消去します。

メモ

- 他のカメラや機器でカードを初期化すると、sd Quattro H で正常に動作しなかったり、容量が少なくなっていることがあります。画像を最大限記録するには、使用前に sd Quattro H で初期化してください。

視度の調整について

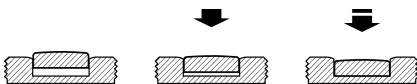


ファインダーを覗きながら、フォーカスフレームや文字がはっきり見えるように、視度補正ダイヤルを回して調整してください。

- 視度の調整できる範囲は、約 -4m^{-1} ～ 約 $+2\text{m}^{-1}$ です。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは2段階になっています。軽く押して止まるところが1段目で、カメラが撮影状態になり、ピントの機構が作動します。この状態までシャッターボタンを押すことを“半押し”と言います。半押しの状態からさらに押し込むとシャッターが切れます。



メモ

- 撮影をする前に、何回かシャッターを切って“半押し”の感覚をつかむと共に、カメラに慣れるように各部を操作して練習することをおすすめします。
- 通常、カメラにカードが入っていないときに、シャッターボタンを押してもシャッターが切れませんが、シャッターが切れるように変更できます。「 カメラ設定」(P.31) → 「カードなしリリース」の項目より設定します。

禁止 (初期設定)	カメラにカードが入っていないときは、シャッターが切れません。
許可	カメラにカードが入っていないときでも、シャッターが切れます。

撮影した画像を確認する



sd Quattro H では、撮影後すぐに液晶モニターに画像を自動的に表示させることができます。この機能は、露出や構図を即座にチェックするのに役立ちます。

「 撮影設定」(P.31) → 「撮影画像確認」より設定します。

切	表示しません
2 秒 (初期設定)	2 秒間表示します。
5 秒	5 秒間表示します。
10 秒	10 秒間表示します。

メモ

- 手動で撮影画像確認画面の表示を消す場合は、シャッターボタンを半押ししてください。

ご注意 !!

- 撮影画像確認画面では、拡大表示、他の画像への切りかえはできません。

基本撮影

実際に撮影する上での基本的な操作を説明します。

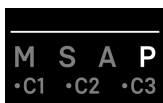
露出のモードを選ぶ

露出を決める4つのモードの特徴と操作方法を説明します。

ご注意 !!

- 本章では「**カメラ撮影設定**」(P.31)メニューの「**ダイヤル露出補正**」(P.89)あるいは「**ダイヤル機能入換**」(P.141)が、初期設定の状態を前提に説明しています。説明文と実際の操作方法が異なる場合は、それぞれの項目をご覧ください。

露出モードの選び方



MODE



1

MODE ボタンを押します。

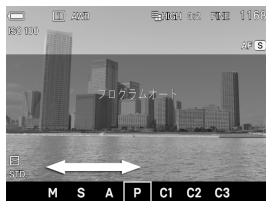
(ファインダーでは画面下端の露出表示部が、モード選択表示に変わります)

2

前後ダイヤル、もしくは **<>** ボタンを押して、希望の露出モードを選びます。

3

OK ボタンを押す、もしくはシャッターボタンを半押しして撮影状態に戻ります。



P プログラムオート

気軽な撮影にはこのモードを選びます。被写体の明るさに応じて、カメラが最適なシャッタースピードと絞りを決めてくれます。



1

露出モードを **P** にセットします。
(ファインダー内のシャッタースピードと絞り値が緑色で表示されます。)

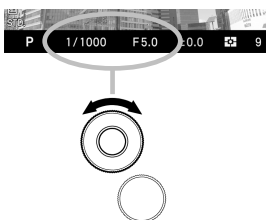
2

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

ご注意 !!

- 液晶モニターに  マークが点灯したときは、シャッタースピードが遅くなり、手ぶれをおこす可能性があります。フラッシュ撮影 (P.104) を行うか、三脚等に固定して撮影してください。
- 明るすぎたり暗すぎた場合、シャッタースピードと絞り値表示が点滅して警告します。そのまま撮影すると露出が合いません。

プログラムシフト



カメラが選んだシャッタースピードと絞りの組み合わせを同じ露出を保ったままを変更することができます。希望するシャッタースピードと絞りの組み合わせの表示ができるまで、前ダイヤルを回してください。

- 撮影後は自動的に解除されます。

A 絞り優先オート

希望の絞りをセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適なシャッタースピードを決めてくれます。絞り込んでピントの合う範囲を広げたり、絞りを開けて背景をぼかすなど、絞りの効果を生かした撮影ができます。



1

露出モードを **A** にセットします。
(ファインダー内の絞り値が緑色で表示されます。)

2

前ダイヤルを回して希望の絞りを設定します。

3

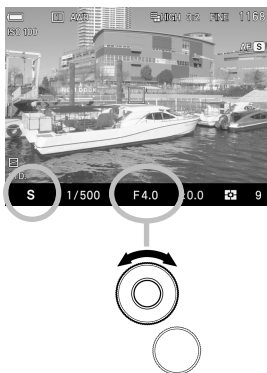
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

ご注意 !!

- 液晶モニターに  マークが点灯したときは、シャッタースピードが遅くなり、手ぶれをおこす可能性があります。フラッシュ撮影 (P.104) を行うか、三脚等に固定して撮影してください。
- 明るすぎたり暗すぎた場合、シャッタースピード表示が点滅して警告します。明るすぎる場合は絞り込み (数字を大きく)、暗すぎる場合は絞りを開けて (数字を小さく)、点滅が消えるように調整してください。

S シャッタースピード優先オート

希望のシャッタースピードをセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適な絞りを決めてくれます。高速シャッターで動きを止めたり、低速シャッターで動きを表現するなど、シャッタースピードの効果を生かした撮影ができます。



1

露出モードを**S**にセットします。

（ファインダー内のシャッタースピードが緑色で表示されます。）

2

前ダイヤルを回して希望のシャッタースピードを設定します。

3

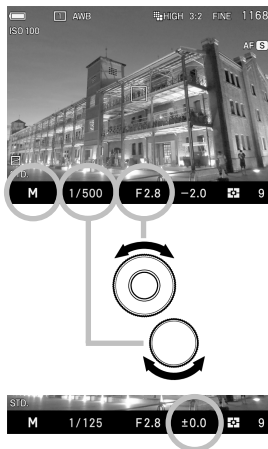
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

ご注意 !!

- 明るすぎたり暗すぎた場合、絞り値表示が点滅して警告します。明るすぎる場合はシャッタースピードを速くし、暗すぎる場合はシャッタースピードを遅くして、点滅が消えるように調整してください。

M マニュアル露出

自分で希望のシャッタースピードと絞りをセットします。カメラの露出メーターの数値に基づいて、わざと露出をずらして表現に工夫を加えたり、市販の外部露出計を利用して露出を決める場合などに使用します。



1

露出モードを **M** にセットします。

（シャッタースピードがオレンジ色、絞り値が緑色で表示されます。）

2

前ダイヤルを回して希望の絞りを設定します。

3

露出メーターの数値が **0.0** になるように、後ダイヤルを回してシャッタースピードを設定します。

露出メーターの表示は 1/3 段ステップで ±5 段まで表示されます。表示範囲を超えた場合、露出メーターの数字が点滅表示されます。

4

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

M モード時の LCD モニター表示について

露出モードが M のときは、写真の仕上がりをイメージしやすくするために、実際の露出が画面に反映され、露出アンダーのときは暗く、露出オーバーのときは明るくなります。

例えば、他社製のフラッシュ等を使用して M モードで撮影する場合、画面が暗い状態ではピントや構図の確認が困難になります。そのような場合は、実際の露出を反映せず、画面の明るさを調整するモードに切り替えることができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「M モード時モニター露出反映」より設定します。

切	見やすい明るさに自動調整されます。
入 (初期設定)	実際の露出が反映されます。

メ モ

- エレクトロニックフラッシュ EF-630 (FOR SIGMA)を使用する場合は、「入」に設定していても、見やすい明るさに自動調整されます。

バルブ撮影

夜景の撮影など、長時間シャッターを開けておきたいときに使用します。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。バルブ撮影のときには、しっかりした三脚を使用しましょう。

1

露出モードを **M** にセットします。

2

後ダイヤルを回しシャッタースピード表示部に **bulb** を表示させます。

3

前ダイヤルを回して絞りを選びます。

4

希望の時間に達するまでシャッターボタンを押し続けます。

ご注意 !!

- バルブ撮影での露光可能な時間は、30 秒までとなっています。30 秒経つと、シャッターボタンを押したままでも、自動的にシャッターが閉じます。

- 拡張モードに設定することにより、バルブ撮影の露光可能時間を 120 秒まで拡張することができます。

「 カメラ設定」(P.31) → 「**拡張モード**」より「**入**」に設定してください。

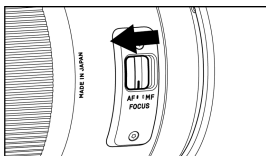
ご注意 !!

- 拡張モードで拡張されたバルブ秒数で撮影した場合、ノイズの増加等により、画質が低下する場合があります。

ピントを合わせる

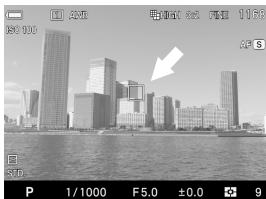
オートフォーカスの設定方法や、手動でのピント合わせについて説明します。

オートフォーカスによるピント合わせ



1

レンズのフォーカスモードスイッチを AF にします。



2

画面中央に被写体をいれてシャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うとフォーカスフレームが緑色に変わります。(サブモニターでは合焦表示が点灯します)

- ピントが合わない場合、フォーカスフレームが点滅して警告します。(サブモニターでは合焦表示が点滅します)

オートフォーカスは、次のような被写体にはピントが合わない場合があります。

- 白い壁など、コントラストのない被写体
- 画面の中央に強い光源がある場合
- 動きが速い場合
- フォーカスフレーム内に近くと遠くของものが混在している場合

ピントが合わないときは、ほぼ同距離にある被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアル（手動）でのピント合わせを行ってください。

オートフォーカスモードの設定

被写体によって、オートフォーカスのモードを切り替えることができます。

S/C ボタンを押して、前後ダイヤル、もしくは **<>** ボタンで希望の AF モードを選びます。

AF  シングル AF (初期設定)	シャッターボタンの半押しでオートフォーカスが駆動し、ピントが合うとロックされます (フォーカスロック)。ピントを合わせ直したいときは、一旦シャッターボタンから指を離して再度半押しをしてください。 ● 通常はこのモードに設定してください。 ● ピントが合わないときシャッターが切れません。 ● 露出はシャッターボタンを半押ししたときの値が固定されます。 ● ドライブモードが連続撮影の場合は、1 コマ目のピント位置で連続撮影されます。 ● ピントが合わなかった場合は、フォーカスフレームが点滅します (サブモニターでは合焦表示が点滅します)。 ● 合焦音が不要な場合は消すこともできます。「 カメラ設定」(P.31) → 「音声」 → 「合焦音」 → 「0」に設定してください。
AF  コンティニュアス AF	シャッターボタンを半押ししている間オートフォーカスが駆動し続けます。ピントが合うと合焦表示が行われますが、フォーカスはロックされません。動く被写体には動体予測機能が働き、シャッターが切れる瞬間のピント位置に調整されます。 ● ピントが合わないときシャッターが切れません。 ● 露出はシャッターボタンを押し込んだときの値で撮影されます。 ● ドライブモードが連続撮影の場合、オートフォーカス駆動と撮影が繰り返されますが、リリースが優先されるためピントが合わないままシャッターが切れる場合があります。 ● 被写体の条件によっては、AF が追従できなかつたり、合焦精度が落ちる場合があります。 ● 合焦音は鳴りません。

オートフォーカスモードの動作について

各オートフォーカスモードの動作を以下のように変更することができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「AF **S** 時の動作」もしくは「AF **C** 時の動作」より設定してください。

レリーズ優先	シャッターボタンを押し込むと、ピントが合っていない状態でもシャッターが切れます。
フォーカス優先 (初期設定)	シャッターボタンを押し込んでも、ピントが合うまではシャッターが切れません。

- AF **S** 時、ドライブモードが連続撮影の場合は、いずれの設定でも 1 コマ目のピント位置で連続撮影されます。
- AF **C** 時、ドライブモードが連続撮影の場合は、オートフォーカス駆動と撮影が繰り返されますが、いずれの設定でもレリーズが優先されるためピントが合わないままシャッターが切れる場合があります。

AF 補助光について

sd Quattro H は、AF 補助光を内蔵していますので、暗い場所でもオートフォーカス撮影が可能です (AF **S** 時のみ)。

- AF 補助光が有効な距離は、約 3m です。
- AF 補助光の照射を禁止することができます。「 撮影設定」(P.31) → 「内蔵 AF 補助光」→ 「切」に設定してください。

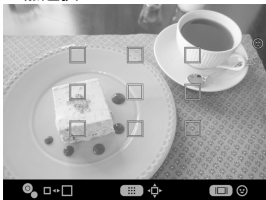
ご注意 !!

- レンズにフードを装着すると AF 補助光がさえぎられ、有効に働かないことがあります。また、外径の大きいレンズや全長の長いレンズでも同様の現象が発生することがあります。

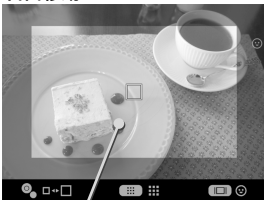
フォーカスフレームの設定

sd Quattro H は、9個のフォーカスフレームから選択する「9点選択モード」と、フォーカスフレームを任意の位置に細かく移動できる「自由移動モード」を備えています。また、フォーカスフレームの大きさをピンポイント、通常、大の3種類から選択することができます。

9点選択モード



自由移動モード



フォーカスフレーム移動エリア

設定方法：

☰ ボタンを押します。

- ☰ ボタンを押すたびに、「9点選択モード」と「自由移動モード」が切り替わります。
- 「9点選択モード」時は、◀◀▶▶ ボタンで任意のフォーカスフレームを選びます。
- 「自由移動モード」時は、◀◀▶▶ ボタンで任意の位置にフォーカスフレームを移動します（フォーカスフレーム移動エリアの範囲内で移動できます）。
- 前ダイヤルか後ダイヤルを回すと、フォーカスフレームのサイズを変更できます。

OK ボタンを押して確定します。

フォーカスロック撮影

被写体がフォーカスフレームに入らない場合の撮影方法です。

1

フォーカスフレームに被写体を入れてシャッターボタンを半押しし、ピントを合わせます。

2

ピントが合い、フォーカスフレームが緑色になったら、シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。



- フォーカスロック撮影は、**AF/AEL** ボタンでも行うことができます。詳しくは P.86「**AF/AEL ボタン**」の項目をご覧ください。

顔優先AFモード

sd Quattro H は、人物の顔を検出したときに優先的にピント合わせを行う、顔優先 AF モードを備えています。

「**📷 撮影設定**」(P.31) → 「**顔優先 AF**」 → 「**入**」を選びます。(通常の AF モードが、顔優先 AF モードに切り替わります。)



OFF



ON

または **⋮** ボタンを押し、**□** ボタンを押すと顔優先 AF モードの ON/OFF の切り替えができます。



画面内に顔が検出されると、オレンジ色の顔検出フレームが表示されます。シャッターボタンを半押しし、検出された顔にピントが合うと、顔検出フレームが緑色に変わります。

- 顔優先 AF モードでは、検出した顔に重点を置いた評価測光に切り替わります。
- 顔検出機能は画面内の最大8人までの顔を検出し、一番近い位置と思われる顔を優先し顔検出フレームを表示します。

ご注意 !!

- MF モードが選択されているときは、顔優先モードにセットすることができません。
- 以下の状況では、顔の検出ができない場合があります。
 - ・ サングラスや帽子などで顔の一部がさえぎられている場合。
 - ・ 顔の向きが正面ではない場合。
 - ・ ピントが大きくずれている場合。
 - ・ 被写体までの距離が遠い、または近すぎる場合。
- 顔の検出ができない場合は、選択されているフォーカスフレームでピントを合わせます。
- 通常の AF モードに戻したい場合は、「 撮影設定」(P.31) → 「顔優先 AF」 → 「切」を選択してください。

半押しAF-ON

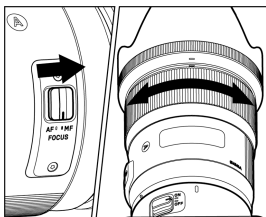
シャッターボタンを半押ししたときに、オートフォーカスを作動させるか、させないかを設定することができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「半押し AF-ON」より設定します。

切	シャッターボタンを半押ししても、オートフォーカスが作動しません。
入 (初期設定)	シャッターボタンを半押しすると、オートフォーカスが作動します。

マニュアル(手動)でのピント合わせ

オートフォーカスが苦手な被写体や、フォーカスロックが行えない場合、マニュアルでピントを合わせてください。



1

レンズのフォーカスモードを**MF**にします。
(画面に「**MF**」と表示されます。)

2

被写体がはっきり見えるようにレンズのフォーカスリングを回します。

フォーカスピーキング

被写体のピントが合った部分の輪郭を強調して表示します。ピントを合わせるときの目安としてご使用ください。ピーキングは被写体によって見やすい色を選択できます。

クイックセットメニュー (P.39)、もしくは「 撮影設定」(P.31) → 「フォーカスピーキング」より設定します。

切（初期設定） OFF	黒 BK	黄色 YE
白 WH	赤 R	

- ピーキング機能が不要な場合は「切」を選択してください。

拡大表示によるピント合わせ

MF モード時に **OK** ボタンを押すと拡大表示になり、ピントが合わせやすくなります。再度 **OK** ボタンを押すと通常表示に戻ります。

- 拡大表示中は液晶モニターに  アイコンが表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示が一時的に解除されます。
- 拡大表示は、液晶モニターに表示されているフォーカスフレームを中心として拡大されます。フォーカスフレームの変更は、P.60 の「**フォーカスフレームの設定**」を参照してください。
- 拡大表示中に前ダイヤルか後ダイヤルを回すと、拡大率を変更することができます。（通常は 8 倍ですが、4 倍に変更できます。）

MF、AF モード共、シャッターボタンの半押し中に **OK** ボタンを押すと拡大表示になります。半押ししたままレンズのフォーカスリングを回して、拡大表示を見ながらピント調整することができます。（AF モードでのピント調整は、ご使用のレンズが、AF モード時にマニュアルでのピント調整が可能なタイプに限ります。詳しくはご使用レンズの説明書をご覧ください。）

- **AF/AEL** ボタンに拡大表示機能を割当てることができます。

（AEL、AFL どちらのポジションにも割当てができます。設定方法は P.86 「**AEL/AF ボタン**」の項目をご覧ください。）

ドライブモードを選ぶ



セルフタイマーや連写などの、カメラの動作モードを説明します。

クイックセットメニュー (P.39)、もしくは「 撮影設定」(P.31) → 「ドライブモード」より設定します。

	1 コマ撮影 (初期設定)		セルフタイマー2 秒
			セルフタイマー10 秒
	連続撮影		インターバルタイマー

1 コマ撮影

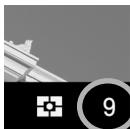
シャッターを押して撮影が終了すると1コマ分撮影され、次の撮影のスタンバイ状態になります。通常は1コマ撮影にセットしてください。

連続撮影

シャッターを押し続けている間、連続撮影ができます。

ご注意!!

- 外部フラッシュを使用して連続撮影をすると、充電中にも撮影が行われるので、場合によってはスローシャッターになることがあります。
- 連続撮影された画像データは、一旦カメラ内蔵のバッファーマemoryに書き込まれます。バッファーマemoryに空き容量がなくなると、それ以上はシャッターが切れなくなります。カメラ内での画像処理が進行し、空き容量ができた時点で次の撮影が可能になります。



ファインダー右下（サブモニター右上）の数字はバッファ残量を示しています。連続して撮影できる最大枚数が表示されます。（連続撮影可能枚数が9枚を超える場合は9から変化しません。）

- 連続撮影時の最大撮影コマ数と速度は、おおむね以下ようになります。

	画像サイズ（P.79）			
	■S-HI	■HIGH	■LOW	■S-LO
DC クロップモード（P.81） 「切」	8 4.4	8 4.4	16 6.2	16 6.2
DC クロップモード（P.81） 「入」	8 4.8	8 4.8	16 6.8	16 6.8

上段は最大撮影コマ数、下段は最大撮影速度（コマ / 秒）です。

セルフタイマー撮影

記念撮影で撮影者も一緒に写りたい場合や、カメラブレを防ぐ目的で使うことができます。

セルフタイマー2秒

シャッターボタンを押してから約2秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマー10秒

シャッターボタンを押してから約10秒後にシャッターが切れます。

構図を決め、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。さらにシャッターボタンを押し込むとセルフタイマーが作動します。作動中は電子音が鳴り、2秒前になると電子音が速くなり知らせます。

- 「🔧 カメラ設定」（P.31）→「音声」→「タイマー音」の設定が「0」に設定されていると、セルフタイマー動作時にも音が鳴りません。
- セルフタイマーを作動中に解除をしたい場合は、電源スイッチをOFFにしてください。

インターバルタイマー撮影

一定の時間間隔で、自動撮影を行うことができます。

1

「 撮影設定」(P.31) → 「ドライブモード」 → 「インターバルタイマー」を選び、 ボタンを押してインターバルタイマー設定画面を表示させます。
（「インターバルタイマー」を選んだ後に、 ボタンを押すと、前回の設定値がセットされます。）

クイックセットメニュー (P.39) からセットする場合は、「」を選び、 ボタンを押してインターバルタイマー設定画面を表示させます。
（「」を選んだ後に、 ボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、前回の設定値がセットされます。）



2

ボタンで、撮影間隔と撮影回数を設定します。

（撮影間隔は 4 秒～60 分の間で設定できます。撮影回数は 2～99 回、および制限無し（∞）が設定できます。）

- 画質と画像サイズの組み合わせにより、設定できる最短の撮影間隔が変わります。

		画像サイズ			
		S-HI	HIGH	LOW	S-LO
画 質	DNG		8 秒	4 秒	
	RAW+J		8 秒	4 秒	
	RAW		8 秒	4 秒	
	FINE	7 秒	7 秒	4 秒	4 秒
	NORM.	6 秒	6 秒	4 秒	4 秒
	BASIC	6 秒	6 秒	4 秒	4 秒

3

ボタンで設定を確定し、**MENU** ボタンを押して撮影状態に戻ります。

4

シャッターボタンを押して、インターバルタイマー撮影を開始します。

- 撮影が開始されると、次のコマが撮影されるまでの時間と、残り枚数が表示されます。
- オートフォーカスで撮影の場合、2 枚目以降も最初の撮影で AF ロックされたピント位置で撮影されます。
- マニュアルフォーカスで撮影の場合、2 枚目以降もフォーカスリングによるピント位置の変更が可能です。
(2 枚目以降、ピント位置をずらしたくない場合は、フォーカスリングを回さないようご注意ください。)
- 撮影間隔を短めに設定した場合、撮影画面に戻らないうちに次の撮影が始まる場合があります。
- 露出は撮影のたびに再測光されます。2 枚目以降も 1 枚目と同じ露出で撮影したい場合は、M モード、もしくは AE ロックボタンにより露出を固定して撮影してください。
- 撮影途中でインターバルタイマーを中止する場合は、シャッターボタンを押します。
- インターバルタイマー撮影とオートブラケット撮影は併用できません。
- バルブ撮影との併用はできません。

ご注意 !!

- インターバルタイマー撮影は、バッテリー残量により途中でバッテリー切れとなり、撮影が中断することがあります。AC アダプター SAC-7 (別売) のご使用をおすすめします。
- インターバルタイマーは、撮影後も解除されずに繰り返し行われます。機能を解除するには、「**ドライブモード**」で他のモードに切り替えてください。
- 設定条件によっては画像処理に時間がかかり、設定した時間よりも長いインターバルになることがあります。

応用撮影

“写真の表現に工夫を加えたい” そんなときに応えてくれる機能の説明をします。

ホワイトバランスの設定（WB）

人間の目は、照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整する能力をもっています。フィルムカメラの場合は、フィルターで調整したり、使用する光源に適したフィルムを選択して対処します。デジタルカメラは、人間の目のような調整能力をソフトウェアでおこなうことができます。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

- 通常、ホワイトバランスは、初期設定の「オート」（AWB）により自動調整されますが、撮影した画像が思い通りの色にならない場合は、マニュアルでセットすることもできます。
- マニュアルでセットする場合は、照明の種類が明らかになっている必要があります。
- マニュアルでセットできる光源の種類は、次ページの表のとおりです。
- 次ページの表内の「カスタム」とは、実際の照明下で撮影し、取り込んだ画像を基準としてホワイトバランスを調整する、カスタムホワイトバランスモードです。（P.74 参照）



- マニュアルでセットできるホワイトバランスには、以下のモードがあります。

	モード	色温度	内 容
AWB	オート (初期設定)	—	カメラが自動的に最適なホワイトバランスを決定します。通常はこのモードにセットしてください。
AWB	オート (色残し)	—	光源の色味を残し、その場の雰囲気を残した調整が行われます。
	晴れ	約 5400K	晴天の屋外で撮影するときに選びます。
	日陰	約 8000K	晴天の屋外の日陰などで撮影するときに選びます。
	くもり	約 6500K	曇天の屋外などで撮影するときに選びます。
	白熱電球	約 3000K	白熱電球の照明下で撮影するときに選びます。
	蛍光灯	約 4100K	白色蛍光灯下で撮影するときに選びます。
	フラッシュ	約 7000K	エレクトロニックフラッシュ EF-630 (FOR SIGMA)を使用して撮影するときに選びます。
	色温度設定	—	色温度を数値で設定し、ホワイトバランスを調整します。
	カスタム 1~3	—	実際に取り込んだ画像を基準とし、ホワイトバランスが設定されます。 (P.74)

クイックセットメニュー (P.39)、もしくは「 撮影設定」(P.31) → 「ホワイトバランス」より設定します。

ホワイトバランスの微調整

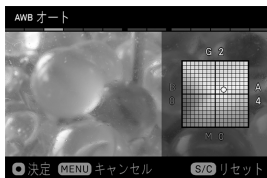
各ホワイトバランスモードに対し、微調整することができます。

- DNG 設定時、ホワイトバランスの微調整はできません。

1

「 撮影設定」(P.31) → 「ホワイトバランス」で好みのホワイトバランスモードを選び、 ボタンを押してホワイトバランス微調整画面を表示させます。

クイックセットメニュー (P.39) からセットする場合は、好みのホワイトバランスモードを選び、 ボタンを押してホワイトバランス微調整画面を表示させます。



2

ボタンを押して調整します。

- B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンを表し、移動方向に寄った色に微調整されます。
- 各方向に 8 段まで微調整できます。

3

確定する場合は ボタンを、変更しない場合は **MENU** ボタンを押してください。

- リセットしたい場合は **S/C** ボタンを押してください。



ホワイトバランスを微調整すると、ホワイトバランスアイコンの右横に調整値が表示されます。

色温度の数値設定

色温度を数値で設定し、ホワイトバランスを調整することができます。

1

「**📷 撮影設定**」(P.31) → 「**ホワイトバランス**」 → 「**色温度指定 **K****」を選び、**➤** ボタンを押して色温度指定画面を表示させます。(「**色温度指定 **K****」を選んだ後に、**OK** ボタンを押すと、前回設定した数値で撮影されます。)

クイックセットメニュー (P.39) からセットする場合は、「**K**」を選び、**⋮** ボタンを押して色温度指定画面を表示させます。(「**K**」を選んだ後に、**OK** ボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、前回設定した数値で撮影されます。)



2

⬅ ボタンを押して数値を設定します。

3

確定する場合は **OK** ボタンを、変更しない場合は **MENU** ボタンを押してください。

色温度指定時もホワイトバランスの微調整をすることができます。

1

色温度指定画面で **➤** ボタンを押すと、ホワイトバランス微調整画面が表示されます。

2

そのあとは前ページの「**ホワイトバランス微調整**」の手順 **2** より設定してください。

メモ

- 光源には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、光の色を絶対温度 (K:ケルビン) で表したものを「色温度」と呼んでいます。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光となり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光となります。光源のおおよその色温度は 71 ページの表を参照してください。

カスタムホワイトバランスの設定

カスタムホワイトバランスは、実際に取り込んだ画像を基準として、ホワイトバランスを設定する方法です。

- カスタムホワイトバランスは3つまで登録することができます。(カスタム1～3)

1

「 撮影設定」(P.31) → 「ホワイトバランス」 → 「カスタム1～3」のいずれかを選び、 ボタンを押してカスタムホワイトバランス取り込み画面を表示させます。「カスタム」を選択した後に、 ボタンを押すと前回取り込まれた設定値で撮影されます。)

クイックセットメニュー (P.39) からセットする場合は、「 1～3」のいずれかを選び、 ボタンを押して、カスタムホワイトバランス取り込み画面を表示させます。「 1～3」を選んだ後に、 ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、前回取り込まれた設定値で撮影されます。)

2

実際に撮影を行いたい照明下で、基準にしたい白い被写体(白い紙や、白い壁など)を画面中央の枠に入れて、マニュアルフォーカスでピント合わせます(ピントはおおよそで構いません)。

3

AF/AEL ボタンを押して、カスタムホワイトバランス画像を取り込みます。
(AF/AEL ボタンのレバーはどちらの位置でも構いません)

取り込みがうまくいった場合は「ホワイトバランスの取り込みに成功しました。」とメッセージが表示されます。

「取り込みに失敗しました! ...」とメッセージが出た場合は、再度AF/AEL ボタンを押してください。

中止したい場合は **MENU** ボタンを押してください。

カスタムホワイトバランスにメモを付ける



カスタムホワイトバランスにメモを付けることができます。メモは「ホワイトバランス」のサブメニューに反映され、登録済のカスタムホワイトバランスを呼び出す際に便利です。

- 半角英数字・記号で 48 文字まで入力できます。

1

カスタムホワイトバランス取り込み画面で▼ボタンを押すと、メモ入力画面が表示されます。

2

文字を入力します。文字の入力方法は「著作権情報の記録」の「文字の入力方法」(P.136)を参照してください。

- カスタムホワイトバランスに付けたメモを消去するには、メモ入力画面で全ての文字を消去してください。

ご注意 !!

- カスタムホワイトバランスに付けたメモは、画像情報には記録されません。

ISO感度の設定



フィルムカメラで、用途に合わせて感度の違うフィルムを選ぶように、撮影時の感度を選択することができます。

ISO ボタンを押して、前後ダイヤル、もしくは **<>** ボタンで希望の ISO 感度を選びます。

ISO Auto (オート) (初期設定)	ISO 125	ISO 500	ISO 2000
	ISO 160	ISO 640	ISO 2500
	ISO 200	ISO 800	ISO 3200
	ISO 250	ISO 1000	ISO 4000
	ISO 320	ISO 1250	ISO 5000
ISO 100	ISO 400	ISO 1600	ISO 6400

ご注意 !!

- M モード時、「ISO Auto」は選択できません。S、A、P モード時に「ISO Auto」を選択した場合、M モード時は次項目「ISO オート範囲設定」で設定された下限の値で撮影されます。

ISOオート範囲設定



ISO オートにおける ISO 感度の下限、および上限を設定することができます。

1

「**撮影設定**」(P.31) → 「**ISO オート範囲設定**」を選び、ISO オート範囲設定画面を表示させます。

2

「**下限**」、「**上限**」をそれぞれ設定します。

下限

ISO 100 (初期設定)	ISO 200	ISO 640	ISO 2000
	ISO 250	ISO 800	ISO 2500
	ISO 320	ISO 1000	ISO 3200
ISO 125	ISO 400	ISO 1250	ISO 4000
ISO 160	ISO 500	ISO 1600	ISO 5000

上限

ISO 125	ISO 400	ISO 1000	ISO 3200
ISO 160	ISO 500	ISO 1250	ISO 4000
ISO 200	ISO 640	ISO 1600	ISO 5000
ISO 250	ISO 800 (初期設定)	ISO 2000	ISO 6400
ISO 320		ISO 2500	

ご注意 !!

- 下限と上限が同じ値、もしくは逆転した値をセットすることはできません。

- ISO 感度の設定は、通常 1/3 段ステップですが、1 段ステップに変更することができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「ISO 感度ステップ」より設定します。

1 段	ISO 感度を 1 段ステップで設定できます。
1/3 段 (初期設定)	ISO 感度を 1/3 段ステップで設定できます。

設定できる ISO 感度 (1 段) は、以下のようになります。

ISO Auto (オート) (初期設定)	ISO 200	ISO 1600
	ISO 400	ISO 3200
ISO 100	ISO 800	ISO 6400

メモ

- 「1/3 段」にセットした場合、ISO オート範囲設定の下限、上限の設定値も 1/3 段ステップで設定できます。

画像の設定

記録画像は、好みによって“画質”“画像サイズ”“アスペクト比”を変更することができます。

画質の設定



記録画像の形式や、JPEG 画像の画質を選択します。

クイックセットメニュー（P.39）、もしくは「 撮影設定」（P.31）→「画質」より設定します。

RAW	RAW	RAW（X3F）形式
RAW+J	RAW+JPEG	RAW（X3F）と FINE（JPEG・高画質）の同時記録
DNG	DNG	DNG 形式
FINE	FINE（初期設定）	JPEG・高画質
NORM.	NORMAL	JPEG・標準画質
BASIC	BASIC	JPEG・ファイルサイズ優先

- RAW（X3F）形式は、カメラ内でデジタル的な処理は行わず、素材性を重視した記録方式です。**SIGMA Photo Pro** による現像作業が必要ですが、**SIGMA Photo Pro** で汎用性の高い JPEG 形式や TIFF 形式に変換できます。
- **SIGMA Photo Pro** は、下記の弊社ウェブサイトより無料ダウンロードいただけます。<http://www.sigma-global.com>
- sd Quattro H は、パソコンを使わずに RAW（X3F）形式で記録された画像から JPEG 形式の画像を作成する機能を備えています。P.131 「カメラで RAW データを現像する」の項目をご覧ください。

- DNG は、アドビシステムズ株式会社（Adobe Systems Incorporated）が開発した RAW 形式の画像データです。**SIGMA Photo Pro** では現像することができません。DNG に対応した現像ソフトをご使用ください（ソフトの仕様によって、本カメラで撮影された DNG ファイルに対応していない場合があります）。
- DNG と JPEG の同時記録はできません。

メモ

- RAW+JPEG に設定した場合、JPEG の画質は FINE となります。
- RAW+JPEG に設定した場合、RAW、JPEG 共、設定された画像サイズで記録されます。

画像サイズの設定



画像の記録画素数（画像サイズ）を選択します。

クイックセットメニュー（P.39）、もしくは「 撮影設定」（P.31）→「画像サイズ」より設定します。

S-HI	S-HI	51M 8,768×5,840 (3:2 設定時)
HIGH	HIGH (初期設定)	26M 6,192×4,128 (3:2 設定時)
LOW	LOW	6.3M 3,088×2,056 (3:2 設定時)
S-LO	S-LO	2.5M 1,920×1,280 (3:2 設定時)

- 「 S-HI」と「 S-LO」は、画質の設定が JPEG（FINE、NORMAL、BASIC）の時のみ設定できます。

アスペクト比の設定

画像のアスペクト比（横縦比）を変更できます。

クイックセットメニュー（P.39）、もしくは「 撮影設定」（P.31）→「画アスペクト比」より設定します。

21:9	映画用ワイドスクリーンとほぼ同等の横縦比です。
16:9	ハイビジョンテレビと同じ横縦比です。
3:2（初期設定）	35mm フィルムカメラと同じ横縦比です。
4:3	従来のテレビやパソコン画面と同じ横縦比です。
7:6	6×7 版カメラとほぼ同じ横縦比です。
1:1	6×6 版カメラで撮影したような正方形の横縦比です。

- 各横縦比の画像は、このカメラの基本横縦比 3:2 の画像からカットして作られます。

メモ

- RAW（X3F）形式で記録された画像は、**SIGMA Photo Pro** で他の比率に変更することができます。



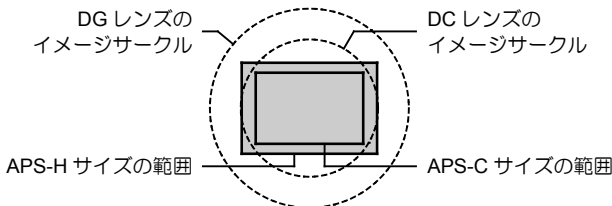
3:2 以外のアスペクト比での撮影では、通常、フレームが黒く表示されますが、半透明表示にすることで、周囲の状況も確認できるスポーツファインダー的な使い方が可能になります。

「 カメラ設定」（P.31）→「フレームの表示」より設定してください。

黒（初期設定）	フレームが黒く表示されます。
半透明	フレームが半透明表示になります。

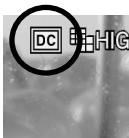
DCクロップモード

sd Quattro H は APS-H サイズの撮像素子を搭載していますが、DC レンズ（APS-C サイズ用）を装着した際、撮像素子の記録範囲を自動的に切り換える DC クロップモードを備えています。また、装着するレンズに関わらず、手動で記録範囲を切り換えることができます。



「 撮影設定」(P.31) → 「DC クロップモード」より設定します。

切	APS-H サイズの範囲が記録されます。
入	APS-C サイズの範囲が記録されます。
オート (初期設定)	装着するレンズ (DG / DC) により、自動で切 / 入が設定されます。



DC クロップモードがオンになると、画面に DC クロップモードアイコンが表示されます。

- DG レンズ装着時に DC クロップモードを「入」にすると、画像の周辺部がカットされ、「切」時に対して約 1.15 倍の望遠効果が得られます。

DC クロップモード時の画像サイズは以下のようになります。

S-HI	S-HI	39.3M	7,680×5,120 (3:2 設定時)
HIGH	HIGH (初期設定)	19.6M	5,424×3,616 (3:2 設定時)
LOW	LOW	4.9M	2,704×1,808 (3:2 設定時)
S-LO	S-LO	2.5M	1,920×1,280 (3:2 設定時)

- 「S-HI」と「S-LO」は、画質の設定が JPEG (FINE、NORMAL、BASIC) の時のみ設定できます。

ご注意!!

- DG レンズ装着時に DC クロップモードを「入」にすると、APS-C サイズの範囲外がカットされ記録されます。
- DC レンズ装着時に DC クロップモードを「切」にして撮影すると、画像周辺部が黒くケラレたり、十分に解像しない場合があります。

- 各画質・画像サイズ・アスペクト比の組み合わせによる 1 画像あたりのおおよそのファイルサイズ (MB) は以下ようになります。

(ファイルサイズは被写体によって変化します。)

DC クロップモード「切」

画像サイズの設定が「S-HI」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質		
		FINE	NORM.	BASIC
21:9	33M (8768×3752)	22	12.6	9.4
16:9	43M (8768×4928)	28.9	16.5	12.4
3:2	51M (8768×5840)	34.2	19.5	14.7
4:3	46M (7792×5840)	30.4	17.4	13.0
7:6	43M (7296×5840)	28.5	16.3	12.2
1:1	34M (5840×5840)	22.8	13.0	9.8

画像サイズの設定が「HIGH」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質				
		RAW	FINE	NORM.	BASIC	DNG
21:9	16M (6192×2648)	97	11	6.3	4.8	148
16:9	22M (6192×3480)	97	14.4	8.3	6.2	148
3:2	26M (6192×4128)	97	17.1	9.8	7.4	148
4:3	23M (5504×4128)	97	15.2	8.7	6.6	148
7:6	21M (5152×4128)	97	14.3	8.2	6.1	148
1:1	17M (4128×4128)	97	11.4	6.6	4.9	148

画像サイズの設定が「LOW」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質				
		RAW	FINE	NORM.	BASIC	DNG
21:9	4.1M (3088×1320)	46	2.8	1.6	1.2	37.1
16:9	5.4M (3088×1736)	46	3.6	2.1	1.6	37.1
3:2	6.3M (3088×2056)	46	4.3	2.5	1.9	37.1
4:3	5.6M (2736×2056)	46	3.8	2.2	1.7	37.1
7:6	5.3M (2560×2056)	46	3.6	2.1	1.6	37.1
1:1	4.2M (2048×2048)	46	2.9	1.7	1.3	37.1

画像サイズの設定が「S-LO」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質		
		FINE	NORM.	BASIC
21:9	1.6M (1920×816)	1.1	0.6	0.5
16:9	2.1M (1920×1080)	1.4	0.8	0.6
3:2	2.5M (1920×1280)	1.7	0.9	0.7
4:3	2.2M (1696×1280)	1.5	0.8	0.6
7:6	2.0M (1584×1280)	1.4	0.8	0.6
1:1	1.6M (1280×1280)	1.1	0.6	0.5

DC クロップモード「入」

画像サイズの設定が「S-HI」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質		
		FINE	NORM.	BASIC
21:9	25M (7680×3296)	16.9	9.7	7.3
16:9	33M (7680×4320)	22.2	12.7	9.5
3:2	39M (7680×5120)	26.3	15.0	11.3
4:3	35M (6816×5120)	23.3	13.3	10.0
7:6	33M (6352×5120)	21.7	12.4	9.3
1:1	26M (5120×5120)	17.5	10.0	7.5

画像サイズの設定が「HIGH」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質				
		RAW	FINE	NORM.	BASIC	DNG
21:9	13M (5424×2328)	77	8.5	4.9	3.7	106.9
16:9	17M (5424×3048)	77	11.1	6.4	4.8	106.9
3:2	20M (5424×3616)	77	13.2	7.5	5.7	106.9
4:3	17M (4816×3616)	77	11.7	6.7	5	106.9
7:6	16M (4480×3616)	77	10.9	6.2	4.7	106.9
1:1	13M (3616×3616)	77	8.8	5.1	3.8	106.9

画像サイズの設定が「LOW」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質				
		RAW	FINE	NORM.	BASIC	DNG
21:9	3.1M (2704×1160)	36	2.2	1.3	1	26.8
16:9	4.1M (2704×1520)	36	2.8	1.6	1.2	26.8
3:2	4.9M (2704×1808)	36	3.3	1.9	1.5	26.8
4:3	4.3M (2400×1808)	36	3	1.7	1.3	26.8
7:6	4.0M (2224×1808)	36	2.7	1.6	1.2	26.8
1:1	3.3M (1808×1808)	36	2.2	1.3	1	26.8

画像サイズの設定が「S-LO」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質		
		FINE	NORM.	BASIC
21:9	1.6M (1920×816)	1.1	0.6	0.5
16:9	2.1M (1920×1080)	1.4	0.8	0.6
3:2	2.5M (1920×1280)	1.7	0.9	0.7
4:3	2.2M (1696×1280)	1.5	0.8	0.6
7:6	2.0M (1584×1280)	1.4	0.8	0.6
1:1	1.6M (1280×1280)	1.1	0.6	0.5

測光モード



被写体の状況に合わせ、3つの測光方式を選びます。

 ボタンを押して、前後ダイヤル、もしくは  ボタンで希望の測光モードを選びます。

	評価測光（初期設定）
	中央重点測光
	スポット測光

評価測光

画面を 256 分割し、それぞれの部分の測光情報をもとにカメラが被写体の状況を判断して最適な露出を算出します。逆光や露出決定が難しい光線状態でも最適となる露出を判断します。（通常はこのモードにセットしてください。）

中央重点測光（中央部重点平均測光）

画面中央部分にウェイトを置き、画面全体の平均的な明るさを算出します。順光などの比較的光線状態が良い場合に、最適な露出がえられます。

スポット測光

選択されているフォーカスフレームの範囲内の明るさのみを算出します。周辺の明るさに影響されず、被写体の特定のポイントに露出を定めたいときに有効です。

AF/AELボタン



sd Quattro H は、フォーカスロック撮影（AFL）や AE ロック撮影（AEL）が行える AF/AEL ボタンを備えています。

レバーでボタンの機能を切換えることができます。各ポジションでの初期設定は以下のようになっています。

AEL ポジション		AF/AEL ボタンを押すと、そのときの露出が固定されます。
AF  AEL	AEL	● もう 1 度 AF/AEL ボタンを押して AE ロックを解除するまで、何枚でも同じ露出で撮影できます。
AF ポジション		AF/AEL ボタンを押すと、フォーカスがロックされます。
AF  AEL	AFL	● もう 1 度 AF/AEL ボタンを押すまで、何枚でも同じピント位置で撮影できます。（露出はシャッターボタン半押し時に固定されます。）

AF/AEL ボタンの割り当て

AF/AEL ボタンは、通常のフォーカスロック / AE ロック機能のほかに、以下のような機能を割り当てることができます。

レバーが「AEL」ポジション時のボタンに割り当てられる機能は、「 撮影設定」（P.31）→「AEL ボタンの機能」より設定します。

AEL（初期設定）	AEL + AFL	LV 拡大表示
AEL（押す間）	AEL+AFL（押す間）	

レバーが「AF」ポジション時のボタンに割り当てられる機能は、「 撮影設定」(P.31) → 「AF ボタンの機能」より設定します。

AFL (初期設定)	AEL + AFL	AF-ON
AFL (押す間)	AEL + AFL (押す間)	LV 拡大表示

AEL	通常の AE ロックの動作となります。前ページの表をご覧ください。
AEL (押す間)	AF/AEL ボタンを押している間だけ露出が固定されます。
AFL	通常のフォーカスロックの動作となります。前ページの表をご覧ください。
AFL (押す間)	AF/AEL ボタンを押している間だけフォーカスがロックされます。
AEL+AFL	AF/AEL ボタンを押すと、AE ロックとフォーカスロックが同時に行われます。 ● もう 1 度 AF/AEL ボタンを押すまで、何枚でも同じ露出とピント位置で撮影できます。
AEL+AFL (押す間)	AF/AEL ボタンを押している間だけ、AE ロックとフォーカスロックが同時に行われます。
AF-ON	AF/AEL ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。 ● 露出は固定されません。
LV 拡大表示	AF/AEL ボタンを押すと拡大表示になります。撮影時の  ボタンと同じ動作をします。詳しくは P.64 「拡大表示によるピント合わせ」の項目をご覧ください。

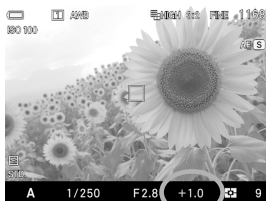
半押しリリースAEL

シャッターボタンを半押ししたときに、露出を固定する、もしくは固定しない設定を選ぶことができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「半押し AEL」より設定します。

切	シャッターボタンを半押しした時点では露出が固定されません。全押しした時点の露出で撮影されます。
入	シャッターボタンを半押しした時点の露出が固定されます。半押し状態で構図を変えても、半押しした時点の露出で撮影されます。
AF S のみ (初期設定)	オートフォーカスのモードがAF S 時のみ、半押しした時点の露出が固定されます。AF C 時は全押しした時点の露出で撮影されます。

露出補正



カメラが判断した適正露出に対し、意図的に明るめにしたり、暗めにしたい場合、この機能を使います。

後ダイヤルを回して希望の補正量をセットします。

-  ボタン押して、前後ダイヤル、もしくは **<>** ボタンでも補正量をセットできます。

補正量は 1/3 段ステップで、±5 段までできます。

ご注意!!

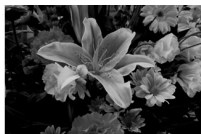
- 露出補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら、後ダイヤルを回して補正量を±0.0に戻してください。
- 露出補正は M モードとの併用はできません。

- 後ダイヤルだけでの補正量セットを禁止することができます。「 撮影設定」(P.31) → 「ダイヤル露出補正」 → 「切」に設定してください。

(「切」に設定し、 ボタンを押さずに後ろダイヤルを回すと、前ダイヤルと同じ動きをします。)

オートブラケット撮影

カメラが判断した適正露出を基準として、明るめと暗めに露出をずらした写真を連続で撮ることができます。



1

「 撮影設定」(P.31) → 「オートブラケット」を選び、 ボタンか ボタンを押し、オートブラケット設定画面を開きます。

2

変更したい項目を ボタンで選択し、 ボタンまたは ボタンを押してサブメニューを開きます。

枚数	撮影する枚数を 3 枚か 5 枚から選択します。
ずらし量	適正露出からのずらし量を設定します。 ずらし量は、1/3 段ステップで±3 段まで設定できます。
順序	オートブラケットの撮影順序を変更することができます。 0 → - → + 適正 → アンダー → オーバー - → 0 → + アンダー → 適正 → オーバー + → 0 → - オーバー → 適正 → アンダー ※初期設定では、適正 → アンダー → オーバー の順序で撮影されます。

3

ボタンで希望の値を選び、 ボタンまたは ボタンで確定します。



4

シャッターボタンを半押しして撮影状態に戻ります。（画面左端に、オートブラケットアイコンが表示されます。）

- 各ドライブモードでの動作は以下のようになります。

1 コマ撮影	シャッターボタンを押すごとに 1 コマずつ撮影されます。
連続撮影	シャッターボタンを押し続けると設定された枚数が連続撮影されます。
セルフタイマー 2 秒	シャッターボタンを押した後、2 秒後に設定された枚数が連続撮影されます。
セルフタイマー 10 秒	シャッターボタンを押した後、10 秒後に設定された枚数が連続撮影されます。

ご注意!!

- インターバルタイマー撮影との併用はできません。

- 各露出モードでの補正は以下のように行われます。

P モード	シャッタースピードと絞りが共に変化します。
A モード	シャッタースピードが変化します。
S モード	絞りが変化します。
M モード	設定したシャッタースピードを中心としてシャッタースピードが変化します。

ご注意!!

- オートブラケット機能は自動的に解除されません。撮影が完了したら同じ手順ですらし量を±0.0 に戻してください。
- オートブラケット機能はフラッシュ撮影と併用できません。
- バルブ撮影との併用はできません。

- オートブラケットアイコンが以下のように変化し、何コマ目の撮影かがわかります。

3 枚撮影の場合

1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目
		

5 枚撮影の場合

1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目	4 コマ目	5 コマ目
				

- サブモニターの撮影可能枚数表示部に、オートブラケット撮影の何枚目かが逆算表示されます。(カウンター表示と交互に表示されます)

3 枚撮影の場合

1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目
[Ab-3]	[Ab-2]	[Ab-1]

5 枚撮影の場合

1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目	4 コマ目	5 コマ目
[Ab-5]	[Ab-4]	[Ab-3]	[Ab-2]	[Ab-1]

- オートブラケットは露出補正と組み合わせて使用できます。

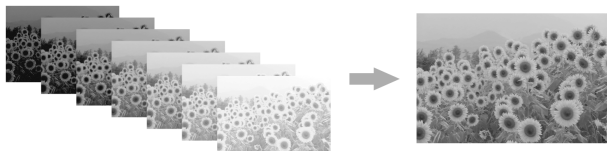
カメラが判断した適性露出に対して、明るめや暗めな露出を基準にしたオートブラケット撮影ができます。前記の手順に従って、露出補正とオートブラケットの両方の設定を行ってください。どちらを先にセットしても結構です。

例えば、露出補正量+1.7、オートブラケットのずらし量を±1.0、枚数を3枚とセットした場合の動作は以下のようになります。

1 コマ目	+1.7 (露出補正量+1.7、ずらし量なし)
2 コマ目	+0.7 (露出補正量+1.7 と、ずらし量-1.0 の合成値)
3 コマ目	+2.7 (露出補正量+1.7 と、ずらし量+1.0 の合成値)

SFDモード（スーパーファインディティール）

露出の違う写真を複数枚記録し、SIGMA Photo Pro で合成することで、ダイナミックレンジが広くノイズを抑えた、ディティールが繊細な写真を生成することができます。



- SFD モードでの撮影は、しっかりした三脚にカメラを固定し、ご使用のレンズが OS(手振れ補正機能)付の場合は OS を OFF にしてください。
- SFD モードの合成結果はカメラ内では確認できません。
- SFD モードで撮影されたファイルは拡張子が **.X3I** となります。

1

「 撮影設定」(P.31) → 「**SFD モード**」 → 「**入**」を選びます。

- SFD モードに設定すると、カメラの設定が以下のように固定される、もしくは選択が制限されます。

露出モード	A、M モード
ドライブモード	1 コマ撮影、 セルフタイマー2 秒、 10 秒

ISO 感度	ISO100
画質	RAW
画像サイズ	HIGH



2

シャッターボタンを半押しして撮影状態に戻ります。(画面左端に、 アイコンが表示されます。)

3

シャッターを押すと自動的に 7 枚撮影されます。

- **SIGMA Photo Pro** での現像で、SFD 画像を生成することができます。詳しくは **SIGMA Photo Pro** のヘルプをご参照ください。
- SFD モードで撮影されたファイルは、**SIGMA Photo Pro** で合成前の X3F ファイルを抽出することができます。詳しくは **SIGMA Photo Pro** のヘルプをご参照ください。

ご注意!!

- オートブラケット撮影、カスタムブラケット撮影、フラッシュ撮影は併用できません。

SFD モードで撮影されたファイルをカメラで再生すると…

SFD モードの合成結果はカメラ内では確認できません。カメラでは以下のように再生されます。

- 通常の 1 画像再生では、露出アンダーの画像から露出オーバーの順序で再生されます。画像右上のアイコンで何枚目の画像かがわかります。

1 コマ目
(露出アンダー)



4 コマ目
(基準露出)



7 コマ目
(露出オーバー)



- 9 画像表示では、サムネイルに基準露出の画像が表示されます。サムネイル画像に アイコンが表示されます。

ご注意!!

- SFD モードで撮影されたファイルを消去する場合、ファイル中の任意のコマを消去することはできません。すべてのコマが消去されます。

カラーモード

各撮影シーンに最適な色調、コントラストなどを調整したカラーモードを選択できます。また、モノクローム調の写真を撮ることができます。

クイックセットメニュー (P.39)、もしくは「 撮影設定」(P.31) → 「カラーモード」より設定します。

STD. スタンダード (初期設定)	さまざまなシーンに対応する基本的なカラーモードです。
VIVID ビビッド	彩度、コントラストが高めに設定され、鮮やかな印象に表現します。
NTR. ニュートラル	彩度、コントラストが控えめに設定され、落ち着いた雰囲気を再現します。
PORT. ポートレート	肌の階調を柔らかく表現する、人物撮影に適したモードです。
LAND 風景	青空や緑をより鮮やかに表現し、メリハリのある風景を再現します。
CINE. シネマ ※	彩度を抑え、シャドウを強調し、映画のようなイメージを再現します。
SUN R. サンセットレッド ※	赤の色再現を強調し、夕焼けなどのシーンをより印象的に表現します。
FOR G. フォレストグリーン ※	緑の色再現を強調し、草木などの緑をより印象的に表現します。
Fov B. FOV クラシックブルー ※	深みのある青色を表現し、印象的な青空を再現します。
Fov Y. FOV クラシックイエロー ※	黄色方向の色味が強調され、深みのある印象的な色調を再現します。
MONO. モノクローム	モノトーンの写真の撮ることができます。

※ DNG 設定時は選択できません。



画面左側に、設定されたカラーモードのアイコンが表示されます。

メモ

- **MONO.**(モノクローム)で撮影された RAW データは、**SIGMA Photo Pro** ではモノクロームモードとして開かれます。また、**SIGMA Photo Pro** でカラー画像に戻すこともできます。(JPEG データはカラー画像には戻せません。)

カラーモード詳細設定

各カラーモードに対し、好みの画像に仕上がるように画像のパラメーター（コントラスト、シャープネス、彩度）を調整することができます。

- DNG 設定時、カラーモード詳細設定の変更はできません。

⦿ コントラスト

+側にすると明暗差が強くなり、メリハリの効いた画像になります。-側にすると明暗差が弱くなり、白飛びや黒つぶれを少なくすることができます。

□ シャープネス

+側にすると輪郭のはっきりとした鮮明な画像になります。-側にすると輪郭のやわらかいソフトな画像になります。

●● 彩度（モノクロームを除く）

+側にすると彩度が高くなり、色鮮やかな画像になります。-側にすると彩度が低くなり、落ち着いた画像になります。

フィルター効果（モノクロームのみ）

モノクロ画像にコントラストの変化を与えることができます。フィルターの色に対して、同色系の色が明るく、補色系の色が暗く表現されます。

OFF 切（初期設定）	YE 黄	OR オレンジ
R 赤	G 緑	B 青

- 通常は「切」（OFF）に設定してください。

調色（モノクロームのみ）

色味のついたモノクロ画像に仕上げることができます。

B/W 白黒（初期設定）	R 赤	WARM 温黒調	SEPIA セピア	G 緑
BG 青緑	B 青	COLD 冷黒調	BP 青紫	P 紫

1

「**📷 撮影設定**」(P.31) → 「**カラーモード**」で好みのカラーモードを選び、**➤** ボタンを押してカラーモード詳細設定画面を表示させます。

クイックセットメニュー (P.39) からセットする場合は、好みのカラーモードを選び、**⦿** ボタンを押してカラーモード詳細設定画面を表示させます。



2

カラーモード詳細設定画面で、**◇** ボタンを押して「**コントラスト**」、「**シャープネス**」、「**彩度**」のいずれかを選び、**◀▶** ボタンで調整量(0.2 段ステップで±1.0 まで調整できます)もしくは希望のオプションをセットします。

3

確定する場合は **OK** ボタンを、変更しない場合は **MENU** ボタンを押してください。

● リセットしたい場合は **S/C** ボタンを押してください。



パラメーターを調整すると、画面左側に調整中のパラメーターアイコンと調整量が表示されます。

メモ

- JPEG データの場合、パラメーター調整が行われた後に圧縮処理されます。RAW データの場合、画像には調整が行われずにパラメーター情報が記録されます。**SIGMA Photo Pro** でデータを展開したときに反映され、**SIGMA Photo Pro** 上でも再調整を行うことができます。

カスタムブラケット

1 回の撮影で、ホワイトバランスやカラーモードを変更した画像を複数枚記録することができます。

● DNG 設定時、カスタムブラケットは設定できません。

ホワイトバランスブラケット

1 回の撮影で、ホワイトバランスを変更した画像を複数枚記録することができます。

1

「 撮影設定」(P.31) → 「カスタムブラケット」 → 「ホワイトバランス WB」を選び、➤ ボタンを押してホワイトバランスブラケット設定画面を表示させます。(「ホワイトバランス WB」を選んだ後に、OK ボタンを押すと、前回設定した内容で撮影されます。)



2

変更したい項目を◇ ボタンで選択し、OK ボタンまたは➤ ボタンを押してサブメニューを開きます。

ずらし方向	ホワイトバランスのずらし方向を、 B↔A （ブルー↔アンバー）方向か M↔G （マゼンタ↔グリーン）方向かを選択します。
枚数	記録する枚数を 3 枚か 5 枚から選択します。
ずらし量	ホワイトバランスを基準からどのくらいずれた値で保存するかを選択します。

3

◇ ボタンで希望の値を選び、OK ボタンまたは➤ ボタンで確定します。



4

シャッターボタンを半押しして撮影状態に戻ります。(画面に、ホワイトバランスブラケットアイコンが表示されます。)

ホワイトバランスの微調整

基準となるホワイトバランスの値を微調整できます。

1

ホワイトバランスブラケット設定画面で、 ボタンを押してホワイトバランスの微調整画面を表示させます。

2

ボタンを操作して基準となる値を調整します。変更しない場合は **MENU** ボタンを押すとキャンセルになり、前画面に戻ります。

3

OK ボタンで調整を確定します。確定後もう一度 **OK** ボタンを押すとホワイトバランスブラケット設定画面に戻ります。

カラーモードブラケット

1 回の撮影で、カラーモードを変更した画像を複数枚記録することができます。

1

「 撮影設定」(P.31) → 「カスタムブラケット」 → 「カラーモード 」を選び、 ボタンを押してホワイトバランスブラケット設定画面を表示させます。(「カラーモード 」を選んだ後に、**OK** ボタンを押すと、前回設定した内容で撮影されます。)

	現在設定されているカラーモードです。(この設定も同じ手順で変更できます。)
BKT1~BKT5	ブラケットで保存するカラーモードが最大 5 種類選べます。(S/C ボタンで登録されているカラーモードを消去できます。)



2

◀▶ ボタンで BKT1~BKT5 を選択し、OK ボタンを押します。

3

画面下部のリストから、◀▶ ボタンで割り当てたいカラーモードを選択し、OK ボタンを押して確定します。

- 割り当てたカラーモードをキャンセルしたい場合は、リストから「—」（割り当てなし）を選択するか、確定後の場合は **S/C** ボタンを押してください。



4

シャッターボタンを半押しして撮影状態に戻ります。（画面に、カラーモードブラケットアイコンが表示されます。）

カラーモードの詳細設定

各カラーモードについて詳細設定をすることができます。

1

前項目手順 **3** で、リストから割り当てたいカラーモードを選択したときに、⋮ ボタンを押してカラーモード詳細設定画面を表示させます。

2

カラーモード詳細設定画面で、◀▶ ボタンを押して「コントラスト」、「シャープネス」、「彩度」のいずれかを選び、◀▶ ボタンで調整量（0.2 段階ステップで±1.0 まで調整できます）もしくは希望のオプションをセットします。

3

確定する場合は OK ボタンを、変更しない場合は MENU ボタンを押してください。確定後もう一度 OK ボタンを押すとカラーモードブラケット設定画面に戻ります。

4

もう一度 OK ボタンを押して、割り当てを確定させます。

- カスタムブラケットは、オードブラケットと組み合わせて撮影できます。オートブラケット撮影 1 枚につき、カスタムブラケットで設定された枚数が記録されます。

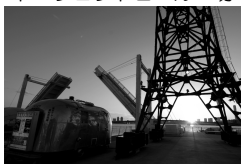
ご注意!!

- カスタムブラケットは自動的に解除されません。撮影が完了したら「 撮影設定」(P.31) → 「カスタムブラケット」 → 「切」を選択してください。
- 1 回の撮影データをもとに、設定枚数分の画像処理が行われるため、通常の撮影よりも書き込み時間が長くなります。また、撮影可能枚数は記録される枚数によって少なくなります。
- ホワイトバランスブラケットとカラーモードブラケットは併用できません。
- インターバルタイマー撮影との併用はできません。

トーンコントロール

シーンによって自動的にトーンカーブを最適化することにより、明暗差の大きな場面などでも、自然な階調の画像にすることができます。

トーンコントロール：切



トーンコントロール：強



クイックセットメニュー (P.39)、もしくは「 撮影設定」(P.31) → 「トーンコントロール」より設定します。

OFF	切	トーンコントロール機能を OFF にします。
	弱 (初期設定)	控えめな効果が得られます。
	強	強い効果が得られます。

ご注意!!

- トーンコントロールの効果は、JPEG 画像のみに反映されます。
- シーンによっては、補正効果によりノイズが目立つ場合があります。その場合は「切」に設定してください。

カラースペース

一般的な色空間である sRGB か、主に商用印刷など業務分野で使われている Adobe RGB を選択することができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「カラースペース」より設定します。

sRGB (初期設定)	Adobe RGB
-------------	-----------

ご注意!!

- 通常、カラースペースは sRGB に設定してください。Adobe RGB に設定された画像を扱う場合は、必ず **SIGMA Photo Pro** か、DCF2.0 に準拠したソフトを利用してください。

縦位置情報記録

縦位置で撮影された情報を画像に記録することができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「縦位置情報記録」より設定します。

切	縦位置情報を記録しない
入 (初期設定)	縦位置情報を記録する

- 縦位置情報が記録された画像は、再生時に自動的に縦方向に回転されて表示されます。
- 縦位置情報が記録された画像を **SIGMA Photo Pro** で開いた場合、自動的に縦方向に回転されて表示されます。

- 縦位置情報が記録された画像を「 再生設定」の「回転」で向きを変更した場合、その後は変更された状態で表示されます。

ご注意!!

- カメラを斜めに構えたり、上向き、下向きで撮影した場合、縦位置情報が正しく記録されない場合があります。

カスタムモード

好みの設定を登録し、モードボタンで簡単に呼び出すことができます。(3つのパターン登録することができます。)

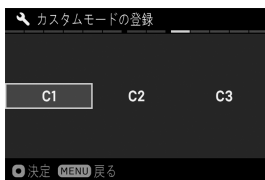
以下の項目の設定を一括登録できます。

- 「 撮影設定」(青タブ) (P.32) の項目すべて
- 露出モード (M, S, A, P) (P.50)
- 絞り・シャッターの設定値
- フォーカスフレームの設定 (P.60)
- 露出補正 (P.88)
- ISO 感度 (P.76)
- 測光モード (P.85)

設定の保存

1

前記の項目を一通り好みの状態に設定します。



2

「 撮影設定」(P.31) → 「カスタムモードの登録」より、  ボタンで **C1**、**C2**、**C3** のいずれかを選び、 ボタンを押します。(確認メッセージが表示されます。)

3

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。
中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

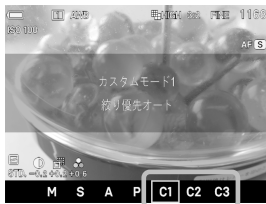
ご注意 !!

- 保存を確定すると、以前に保存されていた設定は、新しい設定に上書きされます。

設定の呼出し

モードボタンを押して、前後ダイヤル、もしくは ◀▶ ボタンで C1、C2、C3 のいずれかにセットします。

MODE



- カスタムモード時に、前記項目の設定を一時的に変更することができます（露出モードを除く）。



変更するとファンクション画面のカスタムモード表示部に ● マークが点灯します。

以下の操作により、変更した設定内容はクリアされます。

- 電源を OFF にする（オートパワーオフ機能で OFF になった場合も含む）
- モードボタンで他のモードに変更する

フラッシュ撮影について

夜間の撮影に便利なフラッシュ（別売）について説明します。

外部フラッシュ撮影について

エレクトロニックフラッシュ EF-630 (FOR SIGMA)（別売）

別売のシグマエレクトロニックフラッシュ EF-630 (FOR SIGMA)を装着することにより、S-TTL 方式による自動調光撮影や、マルチ発光撮影などの多彩なフラッシュ撮影が可能となります。

フラッシュモードの設定

外部フラッシュのいくつかの項目については、カメラ側から設定することができます。

「 撮影設定」（P.31）→「フラッシュ」より設定します。



赤目緩和モード（赤目発光）

フラッシュを使用して人物を撮影すると、瞳が赤く写ることがあります。赤目緩和モードはシャッターが切れる前にプリ発光を行い、赤目現象を緩和することができます。

- 撮影条件や個人差により、完全に赤目現象を除去できない場合があります。



後幕シンクロ撮影（後幕シンクロ）

シャッター幕が閉じる直前にフラッシュが発光します。動く被写体の後方に流れる光や軌跡が撮影できるため、自然な動きが表現できます。



FP 発光モード（FP 発光）

同調スピードを超えたシャッタースピードでの発光が可能になります。最高シャッタースピードまで設定できるため、日中の逆光での撮影などに便利です。



スローシンクロモード（スローシンクロ）

P/A モード時のフラッシュ撮影では、シャッター速度が手ぶれを起こしにくいシャッター速度に制限されますが、スローシンクロモードに設定すると、明るさに応じて 30 秒までのスローシャッターで制御されます。夜景と人物の両方に露出の合った写真を撮ることができます。

AF 補助光（AF 補助光）

通常、フラッシュ撮影時はフラッシュに内蔵された AF 補助光が点灯します。AF 補助光が撮影の妨げになる場合、「AF 補助光」の設定から「切」を選択することで発光機能を止めることができます。

- 「AF 補助光」の設定を「切」にすると、カメラに内蔵された AF 補助光が機能します。どちらの補助光も光らせたくない場合は「内蔵 AF 補助光」の設定も「切」にしてください（P.59）。

ご注意 !!

- フラッシュモードは、フラッシュを取り付けていない状態、もしくはフラッシュの電源が OFF の状態では設定できません。

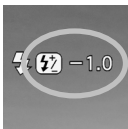
調光補正

背景の露出には影響を与えずに、フラッシュの光量のみ補正することができます。

「 撮影設定」（P.31）→「フラッシュ」→「調光補正」より設定します。

 ボタンで補正量をセットします。

- 補正量は 1/3 段ステップで、±3 段までできます。



調光補正を設定すると、画面左側に調光補正アイコンと補正量が表示されます。

ご注意!!

- 調光補正は、フラッシュを取り付けていない状態、もしくはフラッシュの電源が OFF の状態では設定できません。
- 調光補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら、上記手順にて補正量を ± 0.0 に戻してください。

sd Quattro H はシンクロ端子 (P.16-⑩) を使用して、シンクロコード接続のフラッシュを使用することができます。

ご注意 !!

- シンクロ端子を使用してのフラッシュ撮影では、S-TTL による自動調光撮影はできません。
- カメラの露出モードを M、シャッタースピードを 1/160 秒以下、もしくは Sync (1/180) にセットし、ご使用のフラッシュの使用説明書に従って撮影してください。
- シンクロ端子極性が、中央のピンがプラス、外周部がマイナスのもののみ対応しています。逆の極性のものをご使用の場合は市販の変換コード等を利用してください。

警告 !!

- シンクロ端子電圧が 250V 以上のフラッシュは使用できません。カメラの故障の原因となります。シンクロ端子の仕様につきましては、各メーカーにお問い合わせください。

Eye-Fiカードを使う（Eye-Fi連動機能）



Wi-Fi（無線 LAN）通信機能をもった Eye-Fi カード（市販品）を使用すると、画像をワイヤレスでスマートフォンやパソコンに転送することができます。

- 画像の転送機能は Eye-Fi カードが備えています。カードの使用方法やセットアップ方法などは、カードの使用説明書を参照してください。
- ご使用になる Eye-Fi カードによっては、RAW 形式の画像を転送することができます。詳しくは Eye-Fi カードの使用説明書を参照してください。

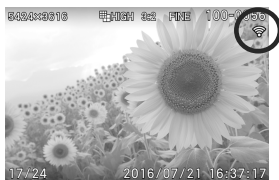
Eye-Fi カードをカメラに入れると、「 カメラ設定」（P.31）→「**Eye-Fi 設定**」→「**Eye-Fi 転送**」の項目がセットできるようになります。

Eye-Fi 転送

切	通信・転送機能を停止し、通常のメモリーカードと同じように動作します。
入 （初期設定）	カード側の設定により、画像を自動転送します。

- 画面に表示される  マークの状態で、通信状況を確認できます。

— （未点灯）	「 Eye-Fi 転送 」が「切」になっている
 （グレー点灯）	未接続
 （白 点滅）	接続トライ中
 （白 点灯）	転送待機中
 （アニメーション）	画像転送中
	Eye-Fi カード情報取得エラー （カメラの電源を入れ直してください。繰り返し表示される場合は、カードの異常が考えられます。）



- 転送が完了した画像には  マークが表示されます。

● Eye-Fi カード固有の情報や、通信情報を確認することができます。

確認できる情報： 接続先 SSID

カードの MAC アドレス

カードのファームウェアバージョン

「 カメラ設定」(P.31) → 「Eye-Fi 設定」 → 「通信情報」より確認してください。

ご注意!!

- 画像の転送中に、カメラの電源を OFF にすると転送が中断されます。再度電源を ON にすると転送が再開されます。
- Eye-Fi カードは、使用する国や地域で使用が認められているか確認してください。またその国や地域の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fi 転送を「切」に設定していても、カードから電波が発信されることがあります。病院や航空機内など、電波の発信を禁止している所では、カメラからカードを取り出してください。
- 通信状況によって、画像の転送が遅くなったり、中断する場合があります。
- 画像の転送中に撮影をすると、通信・転送が中断される場合があります。撮影した画像のカードへの書き込みが完了すると、通信・転送が再開されます。
- 画像の転送ができない場合は、カードの使用説明書を参照し、カードやパソコンの設定を確認してください。
- Eye-Fi カードの通信・転送機能はカメラの電源で作動するので、バッテリーの消耗が早くなります。

画像の再生、消去

ここでは、撮影した画像の再生や消去の仕方について説明します。

画像の再生

sd Quattro H で撮影した画像を様々な方法で再生することができます。

sd Quattro H で撮影した画像を再生するには、本体背面の  ボタンを押します。カードに最後に記録された画像が、液晶モニターに表示されます。



 ボタンを押すと、画像が再生されます。

再度  ボタンを押すと撮影状態に切り替わります。

メモ

- 撮影画像を再生してから新たに撮影した画像がない場合は、最後に再生した画像が表示されます。
- カードに画像がない場合は、” **画像がありません** ”と警告表示されます。
- 画像の再生中でも、 ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

ご注意!!

- 他のカメラで撮影した画像や、ファイル名を変更したり、カード内の DCIM フォルダから移動させた画像ファイルは、表示できない場合があります。

1 画像再生

記録された画像を見るには、本体背面の **▶** ボタンを押します。

1 画像再生中は：

- **▶** ボタンを押すと、後の画像を表示します。
- **◀** ボタンを押すと、前の画像を表示します。
- 後ダイヤルを回すと、前後の画像を表示します。
- **□** ボタンを押すと、情報表示が切り替わります (P.42)。



1	記録画素数
2	画像サイズ
3	アスペクト比
4	画質
5	フォルダ番号-ファイル番号
6	ファイル順 / ファイル数

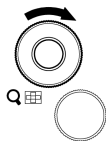
7	年 / 月 / 日
8	時 / 分 / 秒
9	シャッタースピード
10	絞り値
11	露出補正值
12	ISO 感度

メモ

- **◀▶** ボタンを押したままにすると、より速く画像を切り替えることができます。画像の切替えは、ボタンを離すまで自動的に行われます。
- 最初と最後の画像はリンクしています。最初の画像で **◀** ボタンを押すと最後の画像が表示されます。また、最後の画像で **▶** ボタンを押すと最初の画像が表示されます。

拡大して表示する（拡大表示）

画像を拡大表示することができます。画像を詳細に見たり、ピントのチェックに便利です。



1 画像再生中に前ダイヤルを Q 側に回します。

拡大率は以下の通りです。

等倍→X1.25→X1.6→X2.0→X2.5→X3.15→X4.0→X5.0→X6.3→X8.0→X10.0

拡大表示中は：

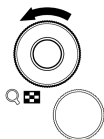
- 前ダイヤルを Q 側に回すとより拡大されます。☒側に回すと縮小されます。
- ◀▶ ボタンで上下方向に、◀▶ ボタンで左右方向に再生部分を移動できます。
- OK ボタンを押すと等倍に戻ります。
- 後ダイヤルを回すと、前後の画像を表示します。

メモ

- 拡大表示は、撮影時のフォーカスポイントの位置を基準に拡大表示されます。

9 画像表示（コンタクトシート表示）

「コンタクトシート」では、9 画像を一度に表示することができます。



1 画像再生中に前ダイヤルを  側に回します。



コンタクトシート表示では：

-  ボタンで他のサムネイル画像の選択ができます。
- 前ダイヤルを  側に回すと、選択されているサムネイル画像が 1 画像再生されます。
- 後ダイヤルを回すと、前後のページを表示します。

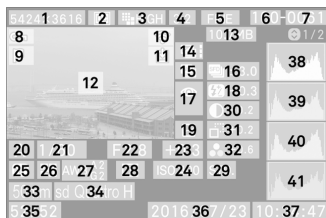
メモ

- 最初のページと最後のページはリンクしています。最初のページの前は最後のページ、最後のページの次は最初のページが表示されます。

画像情報を見る

撮影された画像の詳細情報を見ることができます。シャッタースピードや絞り値以外に、測光モードやフォーカスモードなど、詳細な情報が表示されます（画像情報スクリーン）。

1 画像再生中に **|** **|** ボタンを数回押します。



1	記録画素数
2	DC クロップモード ※
3	画像サイズ
4	アスペクト比
5	画質
6	フォルダ番号
7	ファイル番号
8	ロック ※
9	マーク ※
10	Eye-Fi 転送 ※
11	カメラ内 RAW 現像
12	フォーカスフレーム
13	ファイルサイズ
14	オートブラケット ※
15	カスタムブラケット ※
16	SFD モード ※
17	フラッシュモード ※
18	調光補正值 ※
19	トーンコントロール
20	露出モード
21	シャッタースピード
22	絞り値

23	露出補正值
24	ISO 感度
25	フォーカスモード ※
26	測光モード
27	ホワイトバランス フィルター効果(モノクローム時)
28	ドライブモード
29	カラーモード 調色(モノクローム時)
30	コントラスト ※
31	シャープネス ※
32	彩度 ※
33	レンズ焦点距離
34	カメラ名
35	ファイル順 / ファイル数
36	年月日
37	時分秒
38	ヒストグラム(輝度)
39	ヒストグラム(赤)
40	ヒストグラム(緑)
41	ヒストグラム(青)

※設定時のみ表示されます。

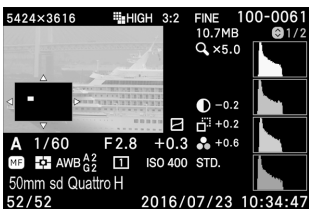
画像情報スクリーンでは：

- 再度 **|□|** ボタンを押すと、通常の1 画像再生表示に戻ります。
- **<>** ボタンを押すと、前後の画像を表示します。
- 後ダイヤルを回すと、前後の画像を表示します。



- **◇** ボタンを押すと、著作権情報表示に切り替わり、著作権情報（撮影者(PHOTOGRAPHER)・著作権者(COPYRIGHT)）が確認できます。

画像情報スクリーンでの拡大表示



画像情報スクリーンの表示中に前ダイヤルを **Q** 側に回すと画像が拡大され、特定領域の詳細なヒストグラム情報を見ることができます。

- ヒストグラムについての詳細は次の項目をご覧ください。

画像情報スクリーンでの拡大表示中は：

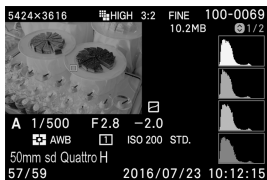
- **◇** ボタンで上下方向に、**<>** ボタンで左右方向に再生部分を移動できます。（ヒストグラム値が自動的に変わります。）
- 前ダイヤルを **Q** 側に回すとより拡大されます。**■** 側に回すと縮小されます。
- **OK** ボタンを押すと、拡大表示を解除しフル画像の画像情報スクリーンが表示されます。
- 後ダイヤルを回すと、前後のページを表示します。

ヒストグラム

ヒストグラムは、画像の明るさの分布をグラフ表示にしたものです。水平軸は明るさのレベルを示し、左方向ほど暗く、右方向ほど明るくなります。垂直軸は各明るさの画素の登場回数を表しています。グラフの分布状態を見ることにより、露出の判断の参考にすることができます。

sd Quattro Hのヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。（撮影モード時に表示されるヒストグラムはRGBを合わせた値です。）

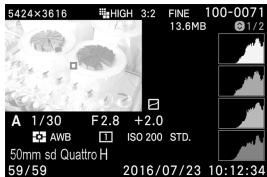
フル画像時のヒストグラムを調べることによって、画像全体の露出を判断することができます。また、拡大表示でのヒストグラムを見ることにより、任意の部分の露出を判断することもできます。



このヒストグラムは、画素の分布が暗い方向にかたより、明るい方向に殆ど存在していません。従って露出不足で全体に暗めの画像であることを示しています。一般に左側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出が不足している場合か、もしくは適正露出でも、暗い部分や暗めの被写体が画面に占める割合が大きく、暗い画素で構成された画像の場合です。



このヒストグラムは、ほぼ均一に画素が分布されており、適正に露出された画像であることを示しています。ただしヒストグラムは、被写体の色や画面に占める割合などによって大きく左右されますので、一概に適正露出であるとは限りません。



このヒストグラムは、画素の分布が明るい方向にかたより、右端に多くの画素が存在しています。従って露出オーバーで全体に明るめ画像であることを示しています。一般に、右側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出がオーバーしている場合か、もしくは適正露出でも明るい部分や明るめの被写体が画面に占める割合が大きく、明るい画素で構成された画像の場合です。

ファイルの消去

カードに記録されたファイルを消去する方法を説明します。

- この章では、カードに記録された画像を「ファイル」と表しています。

消去ボタンで消去する



🗑 (消去) ボタンでは、現在表示中のファイルのみ消去できます。

1

消去したいファイルを表示します。

2

🗑 ボタンを押します。(「このファイルを消去しますか？」と確認メッセージが表示されます)

3

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

ご注意 !!

- ファイルがロックされている場合は「このファイルはロックされています。」と確認メッセージが表示され、消去から保護されます。消去したい場合は、はじめにロックを解除してください。(P.120-122 参照)
- RAW+JPG で記録された画像は、RAW 画像、JPEG 画像共に消去されます。

消去メニューからファイルを消去する



消去メニューからはひとつのファイル、あるいは複数のファイルをまとめて消去することができます。

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「再生設定」(P.31)を開き「消去」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

ファイル選択	複数のファイルを選択して消去します。◀▶ボタンで消去したいファイルを表示させ、◀▶ボタンで🗑️アイコンを表示させます。この操作を繰り返して消去したい画像を指定します。
現在のファイル	現在の1ファイルのみ消去します。
マーク画像	カード内に記録されたマークした画像をすべて消去します。(画像のマークについてはP.122-124をご覧ください。)
全画像	カードに記録されたすべてのファイルを消去します。

3

OK ボタン、もしくは ▶ ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

ご注意 !!

- ロックされたファイルは消去されません。(画像のロックについては P.120-122 をご覧ください。)
- 「ファイル選択」「マーク画像」「全画像」の消去は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

メモ

- 「現在のファイル」以外は、画像を表示していないときでも実行できます。

再生時のその他の機能

スライドショー、ロック、マーク、回転などの機能を説明します。

ファイルをロックする



ロックは、誤ってファイルを消去することを防ぎます。

警告 !!

- ロックされていても、カードの初期化を行うとファイルは消去されます。カードの初期化を行うときは十分注意してください。

メモ

- ロックされたファイルは、パソコンでは「読み取り専用」と表示されます。

ひとつのファイルのロックする

1

ロックしたい画像を表示させ、MENU ボタンを押して「再生設定」(P.31)を開き「ロック」を選びます。

2

サブメニューで「ロック」を選びます。

3

OK ボタン、もしくは ➤ ボタンを押します。



- ロックされたファイルに  マークが表示されます。

メモ

- ファイルが既にロックされている場合は、「**ロック解除**」と表示されます。
- ロックを解除するには、ロックされたファイルを選択し、上記と同じ手順で解除します。
- **OK** ボタンをロックのショートカットボタンに設定することができます。（P.127 参照）

複数のファイルをロックする

1

MENU ボタンを押して「**再生設定**」(P.31)を開き「**ロック**」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

ファイル選択	複数のファイルを選択してロックします。 ◀▶ ボタンでロックしたいファイルを表示させ、 ◆ ボタンで On アイコンを表示させます。この操作を繰り返してロックしたい画像を指定します。
■ ロック	マークされた画像をすべてロックします。（画像のマークは P.122-124 をご覧ください。）
全ロック	すべてのファイルをロックします。

3

OK ボタン、もしくは **▶** ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

◀▶ ボタンで「はい」を選び、**OK** ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、**◀▶** ボタンで「いいえ」を選び **OK** ボタンを押します。

- ロックされたファイルにはすべて、**On** マークが表示されます。

ご注意 !!

- 「ファイル選択」「 ロック」および「 ロック解除」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

メモ

- 複数のファイルをロック解除するには、ロックメニューの「**全ロック解除**」か「 ロック解除」を選択します。

画像をマークする



画像をマークすると、お気に入りの画像の区分け、スライドショー用の画像の選別、消去メニューの「マークしたファイルをすべて消去」(P.118)で消去する等、画像の選別に便利です。

メモ

- カメラでマークした画像は、**SIGMA Photo Pro** 上でもマーク状態と表示されます。

ひとつの画像をマークする

1

マークしたい画像を表示させ、**MENU** ボタンを押して「 再生設定」(P.31)を開き「マーク」を選びます。

2

サブメニューで「マーク」を選びます。

3

OK ボタン、もしくは ➤ ボタンを押します。



- マークされた画像に  マークが表示されます。

メモ

- 既にマークされている場合は、「**マーク解除**」と表示されます。
- マークを解除するには、マークされた画像を選択し上記と同じ手順で解除します。
- OK ボタンを画像のマークのショートカットボタンに設定することもできます。（P.127 参照）

複数の画像をマークする

1

MENU ボタンを押して「 **再生設定**」(P.31)を開き「**マーク**」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

ファイル選択	複数の画像を選択してマークします。◀▶ ボタンでマークしたい画像を表示させ、  ボタンで  アイコンを表示させます。この操作を繰り返してマークしたい画像を指定します。
全画像マーク	すべての画像をマークします。

3

OK ボタン、もしくは ➤ ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

- マークされた画像にはすべて  マークが表示されます。

ご注意 !!

- 「ファイル選択」「全画像マーク」および「全画像マーク解除」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

メモ

- マークされた画像をすべて解除するには、マークメニューの「全画像マーク解除」を選択します。

画像を回転する



画像の表示方向を回転させることができます。

ひとつの画像を回転する

1

回転させたい画像を表示させ、MENU ボタンを押して「 再生設定」(P.31)を開き「回転」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

 回転	画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。
 回転	画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。

ご注意 !!

- 「 **再生設定**」（P.31）の「**回転表示**」が「切」に設定されている場合、画像回転メニューは選択できません。

メ モ

- 180 度回転する場合は同じ方向に 2 回、回転させます。
- 元に戻すには、反対方向に回転させます。
- **OK** ボタンを画像回転のショートカットボタンに設定することができます。（P.127 参照）
- カメラで回転させた画像は、**SIGMA Photo Pro** でも同じ向きで表示されます。

複数の画像を回転する

1

MENU ボタンを押して「 **再生設定**」（P.31）を開き「**回転**」を選びます。

2

サブメニューで、「**ファイル選択**」を選びます。

3

<> ボタンで回転したい画像を表示させ、右回転させたい場合は **▲** ボタン、左回転させたい場合は **▼** ボタンを押します。この操作を繰り返して回転させたい画像を指定します。

4

OK ボタン、もしくは **➤** ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

露出警告

露出オーバーで、画像が白く飛んでしまっているハイライト部分を、赤色で警告表示することができます。

「▶ 再生設定」(P.31) → 「露出警告」で、「入」に設定してください。

- 露出警告は、撮影画像確認画面では表示されません。

露出警告表示を中止したい場合は、「▶ 再生設定」(P.31) → 「露出警告」で、「切」に設定してください。

メモ

- OK ボタンを露出警告「入/切」のショートカットボタンに設定することもできます。(P.127 参照)

OKボタンの割り当て



OK ボタンに再生メニューの機能を割り当てることができます。よく使う機能を割り当てて、1 アクションで簡単に行うことができます。

「 再生設定」(P.31) → 「OK ボタンの機能」より設定します。

OK ボタンに割り当て可能な機能

ロック	ロックしていない画像上で OK ボタンを押すとロックされます。既にロックされている画像上で OK ボタンを押すとロックが解除されます。
マーク	マークしていない画像上で OK ボタンを押すとマークされます。既にマークされている画像上で OK ボタンを押すとマークが解除されます。
露出警告	OK ボタンを押すたびに露出警告表示の ON/OFF が繰り返されます。
⌚ 回転	OK ボタンを押すたびに、画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。
↺ 回転	OK ボタンを押すたびに、画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。
拡大表示 （初期設定）	OK ボタンを押すたびに拡大表示（10x）/ 等倍表示が繰り返されます。

割り当てられた機能を解除するには、「 再生設定」(P.31) → 「OK ボタンの機能」で、「なし」に設定してください。

スライドショーを見る

sd Quattro H のスライドショー機能を使用すると、すべての画像あるいは選択した画像のみを自動的に再生します。

スライドショーオプション

全画像	すべての画像を再生します。
ロック画像	ロックされた画像のみ再生します。
マーク画像	マークされた画像のみ再生します。
スライドショーの設定	表示間隔の設定、繰り返しのする/しないを設定します。

スライドショーの見方

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「 **再生設定**」(P.31)を開き「**スライドショー**」を選びます。

2

サブメニューで「**全画像**」「**ロック画像**」「**マーク画像**」のいずれかを選びます。

3

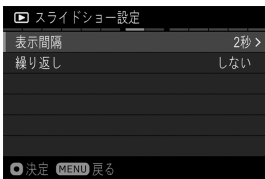
OK ボタン、もしくは **➤** ボタンを押すと、スライドショーが始まります。

スライドショーを途中で停止したい場合は、**OK** ボタンを押します。

ご注意 !!

- 「**マーク画像**」を選択した場合、カード内のファイル数によっては、スライドショーが開始されるまで、かなりの時間が掛かることがあります。

スライドショーの設定を変更する



スライドショーのサブメニューで「**スライドショーの設定**」を選択し、**OK** ボタン、もしくは **➤** ボタンを押すと、スライドショーの設定画面に移ります。

スライドショーの設定オプション

表示間隔	2 秒	画像が表示される時間を設定します。
	5 秒	
	10 秒	
繰り返し	しない する	スライドショーを繰り返すか、自動終了するかを設定します。

表示間隔

◇ ボタンで「**表示間隔**」を選択し、**◀▶** ボタンで表示したい秒数を選びます。

繰り返し

◇ ボタンで「**繰り返し**」を選択し、**◀▶** ボタンで「**しない**」か「**する**」を選びます。

設定の変更を確定する場合は **OK** ボタンを、しない場合は **MENU** ボタンを押します。

DPOFプリント

カードをデジタルプリント取り扱い店に持ち込んでプリントを依頼するとき、DPOF プリントメニューでプリントしたい画像の選択や枚数をあらかじめカメラで指定しておくことができます。指定情報は DPOF 対応プリンターでプリントする際にも利用できます。

ご注意 !!

- RAW データ (X3F ファイル) は、DPOF プリントの設定ができません。

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「**再生設定**」(P.31)を開き「**DPOF 設定**」を選びます。

2

サブメニューで希望の指定方法を選択し、**OK** ボタン、もしくは **➤** ボタンを押します。

DPOF 設定オプション

ファイル選択	◆ ボタンを押して印刷枚数を指定します。1 回で複数の画像を指定したい場合は、プリントしたい画像を <> ボタンで表示させて ◆ ボタンを押して枚数を指定します。この操作を繰り返して指定します。
全選択	カードに記録されているプリント可能な静止画データを一括指定します。◆ ボタンを押して枚数を指定します。
選択解除	以前に指定された枚数の指定を全てリセットします。

3

OK ボタン、もしくは **➤** ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

<> ボタンで「はい」を選び、**OK** ボタンを押して確定します。
中止したい場合は、<> ボタンで「いいえ」を選び **OK** ボタンを押します。

カメラでRAWデータを現像する

パソコンを使わずに、RAW 形式で記録された画像から、JPEG 形式の画像を作成することができます。

RAW 現像設定画面



1	露出補正 (P.88)
2	ホワイトバランス (P.70)
3	画質 (P.78)
4	画像サイズ (P.79)
5	アスペクト比 (P.80)
6	カラーモード (P.94)
7	カラースペース (P.101)
8	トーンコントロール (P.100)
9	現像実行アイコン
10	選択されている項目

1

RAW 画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「**再生設定**」(P.31)を開き「**RAW 現像**」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法で RAW 現像したい画像を選びます。

ファイル選択	◀▶ ボタン (9 画像表示時は◀◆▶ ボタン) で現像したい画像を表示させ、OK ボタンを押して確定します。 「ファイル選択」は、手順 1 で画像を表示してなくても実行できます。
現在のファイル	手順 1 で表示した画像が選ばれます。 手順 1 で、JPEG 画像を表示したときは「現在のファイル」を選ばません。

- 画像の選択後、RAW 現像設定画面が表示されるまで、「**処理中**」とメッセージが表示されます。

3

RAW 現像設定画面で、**<◇>** ボタンで変更したい項目を選び、**OK** ボタンを押して確定します。

- ホワイトバランス (P.70) とカラーモード (P.94) は、各オプションに対して詳細な設定が可能です。**⋮** ボタンを押して詳細設定画面を表示させてください。詳しくは各項目のページを参照してください。

4

画像を確認しながら、前後ダイヤル、もしくは **<>** ボタンを押して調整値（もしくはオプション）を変更し、**OK** ボタンを押して確定します。

5

変更したい項目が複数ある場合は、手順 **3**～**4** を繰り返します。

6

一通り設定が完了したら、**⏏**（現像実行アイコン）を選び **OK** ボタンを押します。

7

<> ボタンで「はい」を選び、**OK** ボタンを押して確定します。
中止したい場合は、**<>** ボタンで「いいえ」を選び **OK** ボタンを押します。



- 再生時、RAW データから作成された JPEG 画像には **⏏** マークが表示されません。
- 作成された JPEG 画像のファイル番号は、カードに入っている最後のファイルの次の番号が割り当てられます。

ご注意 !!

- カードに十分な容量が無い場合、警告メッセージが表示され、RAW 現像を実行できません。
- SFD モードで撮影されたファイル（.X3I）、および DNG ファイルは現像できません。
- より細かな調整が必要な場合は **SIGMA Photo Pro** での現像をおすすめします。

その他の設定変更

カメラの基本動作を好みの状態に変更できる設定項目をご紹介します。

ファイル番号の設定

記録されたデータには、自動的に 0001 から 9999 までのファイル番号が付けられます。データを再生しているときは、液晶モニターの右上にファイル番号が表示されます（P.111, 114 参照）。また、ファイル番号はデータのファイル名にも表示されます。ファイル名は、4 ケタのファイル番号と拡張子が SDIM の後に続きます。例えば、画像番号 0023 は RAW データの場合、SDIM0023.X3F、JPEG データの場合、SDIM0023.JPG と記録されます。sd Quattro H で撮影された画像ファイルは、すべてカードの DCIM フォルダ内の####SIGMA フォルダに記録されます。

- 「 撮影設定」(P.31) → 「カラースペース」で、「**Adobe RGB**」が選択されている場合、ファイル名の「SDIM」は「_SDI」となります。
- ファイル番号は連番か、空のカードを入れるたびにリセットされるかのいずれかを選択できます。設定は「 カメラ設定」(P.31) → 「**ファイル番号**」より行います。

ファイル番号設定メニュー

通し番号 (初期設定)	連続でファイル番号が付けられます。空のカードを入れたとき、最初のファイルに付けられるファイル番号は、以前の撮影で付けられた最後の番号より1つ大きい番号が付けられます。(sd Quattro H で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、以前に付けられた最後の番号よりもカード内のファイルの番号が大きければ、その番号の続きが付けられます。)
オートリセット	空のカードを入れたり、使用中のカード内の画像をすべて消去するたびに、ファイル番号が初期の番号 0001 にリセットされます。(sd Quattro H で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、番号はリセットされずに次の番号が付けられます。)

ご注意 !!

- フォルダ番号・ファイル番号が "999-9999" に達した場合、カードに空き容量があっても、「ファイル番号・フォルダ番号の割り当てができません。」とメッセージが表示され、それ以上撮影ができなくなります。その場合は、新しいカードに交換してください。

ファイル名の変更

撮影画像のファイル名を「SDIM」か「SDQH」のいずれかから選べます。

「 カメラ設定」(P.31) → 「ファイル名」より設定してください。

SDIM (初期設定)	ファイル名が「SDIMxxxx.xxx」となります。
SDQH	ファイル名が「SDQHxxxx.xxx」となります。

- 途中でファイル名を変更しても、ファイル番号は前回付けられた番号の続きの番号が付けられます。
- 「 撮影設定」(P.31) → 「カラースペース」で「**Adobe RGB**」が選択されている場合、ファイル名の「SDIM」は「_SDI」、「SDQH」は「_DQH」となります。

著作権情報の記録

撮影時に「撮影者」と「著作権者」の情報を画像の Exif 情報に記録することができます。

- 「撮影者」「著作権者」それぞれ半角英数字・記号で 48 文字まで入力できます。

1

「 カメラ設定」(P.31) → 「著作権情報」を選びます。

2

著作権情報画面で「**撮影者名入力**」または「**著作権者名入力**」を選び、次ページの「**文字の入力方法**」の手順に従い、文字を入力します。



3

文字の入力が完了したら、著作権情報画面の「**著作権情報記録**」から「**入**」を選びます。(その後の撮影から画像に著作権情報が記録されます。)

メモ

- 記録された情報は、著作権情報表示画面（P.115）で確認することができます。
- 記録された情報は、**SIGMA Photo Pro** の「撮影情報ウインドウ」や Exif 対応ソフトで確認することができます。

ご注意 !!

- カメラを貸したり譲渡するときなどは、「著作権情報記録」を「切」にしてください。また「撮影者名入力」と「著作権者名入力」は空欄にしてください。
- 著作権情報記録によるトラブルや損害が生じた場合、当社では一切責任を負いません。

文字の入力方法

撮影者名入力および著作権者名入力画面



入力文字表示エリア

入力文字表示エリアのカーソルは前後ダイヤルで移動できます。

キーボードエリア

キーボードエリアのカーソルは<>ボタンで移動できます。

1

キーボードエリアで入力したい文字を選び、**OK** ボタンを押して入力します。

	キーボードをアルファベットに切り替えます。 アルファベットの表示中は、押すごとに大文字/小文字を切り替えます。
	キーボードを記号に切り替えます。
	1 文字分のスペースを挿入します。

2

一通り文字を入力したら、**FINISH** を選び、**OK** ボタンを押して確定します（前の画面に戻ります）。

- **MENU** ボタンを押すと、入力した文字はキャンセルされ、前の画面に戻ります。

入力した文字を消したい場合

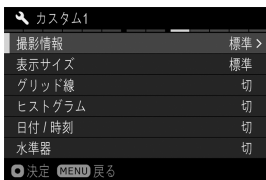
前後ダイヤルで名前エリアのカーソルを消したい文字の後ろ側に移動し、**S/C** ボタンを押します。

液晶モニター表示のカスタマイズ

撮影時に表示されるアイコン類の大きさを変更したり、撮影に便利な機能を追加することができます。

1

メインモニターの設定は「**カメラ設定**」（P.31）→「**モニター**」**モード設定**」から、ファインダーの設定は「**カメラ設定**」（P.31）→「**ファインダー**」**モード設定**」からカスタマイズしたいモードを選びます。



2

「入」を選び **入** ボタンを押します。

3

変更したい項目を選び **入** ボタンを押します。

メモ

- 不要なディスプレイモードを表示しないようにすることができます。いずれかの「**モード設定**」から表示させたくないモードを選び、「切」に設定してください。

撮影情報

撮影情報表示の量を選べます。

	切	最少	標準 (初期設定)
ドライブモード	—	—	○
ホワイトバランス/フィルター効果	—	—	○
AE ロック、AF ロック ※1	—	○	○
DC クロップモード ※1	—	○	○
画像サイズ、アスペクト比、画質	—	—	○
オートブラケット/SFD ※1	—	○	○
日付時刻 ※2	○	○	○
カスタムブラケット ※1	—	○	○
顔優先 AF モード ※1	—	○	○
フォーカスモード	—	○	○
フラッシュモード、調光補正值 ※1	—	○	○
水準器表示 ※2	○	○	○
フォーカスフレーム	○	○	○
ヒストグラム ※2	○	○	○
トーンコントロール	—	—	○
カラーモード/調色	—	—	○
コントラスト、シャープネス、彩度 ※1	—	—	○
ロック中表示 ※1	—	○	○
Eye-fi 通信マーク ※1	—	○	○
インターバル撮影 ※1	—	○	○
撮影可能枚数 ※3	—	○	○
バッファ残量、シャッタースピード、絞り値、露出補正值 / 露出メーター、測光モード、露出モード ※3	○	○	○
カスタムモード ※3	○	○	○
合焦表示 ※3	○	○	○
バッテリー残量表示 ※3	—	○	○
ISO 感度 ※3	—	—	○

● どの設定でも警告に関するアイコンは表示されます。

※1 設定時のみ表示されます。

※2 ディスプレイモードの設定によります。

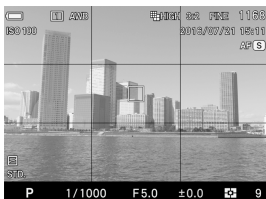
※3 メインモニターには表示されません。

表示サイズ

撮影情報表示の大きさを選べます。

標準	標準サイズで表示します。
大	標準より大きなサイズで表示します。

グリッド線



構図の決定に便利なグリッド線を表示することができます。

切	表示しません。
－ 4 分割(黒)	4 分割黒線表示
－ 9 分割(黒)	9 分割黒線表示
－ 16 分割(黒)	16 分割黒線表示
－ 4 分割(白)	4 分割白線表示
－ 9 分割(白)	9 分割白線表示
－ 16 分割(白)	16 分割白線表示

ヒストグラム

露出の決定に便利なヒストグラムを表示することができます。

- ヒストグラムの詳細は P.116「ヒストグラム」の項目を参照してください。

切	表示しません。
入	表示します。

日付 / 時刻

日付や時刻を表示することができます。

切	表示しません。
日付	年月日を表示します。
時刻	時刻を表示します。
日付+時刻	年月日と時刻を表示します。

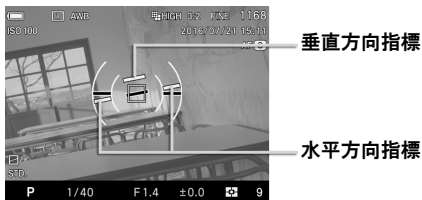
水準器

構図の決定に便利な水準器を表示することができます。

切	表示しません。
入	表示します。

水準器について

カメラの水平方向と垂直方向の傾きを表示します。



- カメラが水平、垂直になると、指標が緑色に変わります。
- 縦位置で撮影する場合、縦位置用の表示に切り替わります。

ご注意 !!

- 水準器は $\pm 1^\circ$ 程度の誤差があります。傾きが大きい状態では誤差が大きくなり、正しく働かない場合があります。
- カメラを真下に構えた場合、水準器は正しく動きません。

水準器調整

水準器の角度のずれを調整できます。

1

「 カメラ設定」(P.31) → 「水準器調整」を選びます。

2

カメラを水平な場所に置いて、**OK** ボタンを押します。

(新しい調整値が記録されます。)

- 調整をリセットしたい場合は、**S/C** ボタンを押します。確認メッセージが表示されますので、**<>** ボタンで「はい」を選び、**OK** ボタンを押して確定します。(工場出荷時の調整値に戻ります。)

ダイヤルのカスタマイズ

露出設定時のダイヤルの割り当てや操作方向を好みの状態にカスタマイズすることができます。

ダイヤルの機能入換

絞りやシャッタースピードの変更や、露出補正の設定は 前ダイヤルと後ダイヤルを使用しますが、各露出モードごとにこれらの割り当てを変更することができます。

📷 ダイヤル機能入換			
	⦿ 前ダイヤル	⦿ 後ダイヤル	
M	絞り	◀ シャッタースピード	
S	シャッタースピード		☑
A	絞り		☑
P	プログラムシフト		☑
⦿ 決定 MENU キャンセル S/C リセット			

「 撮影設定」(P.31) → 「ダイヤル機能入換」より設定します。

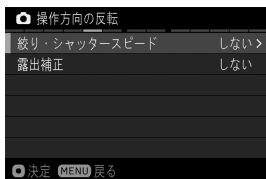
◇ ボタンで露出モードを選び、**<>** ボタンで機能を変更し、**OK** ボタンで確定します。

- ダイヤルの割り当てを初期状態に戻したい場合は、**S/C** ボタンを押してリセットし、**OK** ボタンで確定してください。

操作方向の反転

各露出モードにおける、ダイヤルの操作方向を反転させることができます。

「 撮影設定」(P.31) → 「操作方向の反転」より設定します。



ボタンで変更したい項目を選び、 ボタンで「しない」「反転する」を選んだあと、 ボタンで確定します。

各露出モードでのダイヤルの動き（「ダイヤル機能入換」が初期設定の時）

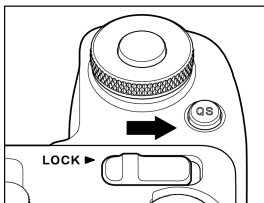
絞り・シャッタースピード

	絞り値	シャッタースピード
しない (初期設定)	開く 絞る	遅い 速い
反転する	絞る 開く	速い 遅い

露出補正

	露出補正值
しない (初期設定)	マイナス補正 プラス補正
反転する	プラス補正 マイナス補正

LOCKスイッチの設定



LOCK スイッチによってロックできる内容を好みに合わせて変更することができます。

「🔧 カメラ設定」(P.31) → 「ロック中の動作」より設定してください。

カメラスリープ	ロック中は、すべての操作が禁止されます。 ● ロック中にオートパワーオフ (P.144) で設定した時間を経過すると、ロックスイッチの操作のみでは撮影状態に戻れません。ロック解除後にシャッターボタンを半押ししてください。
 有効	ロック中は、シャッターボタン、モニター切換レバーのみ操作できます。その他のボタン、前後ダイヤルは操作が禁止されます。
 有効 (初期設定)	ロック中は、シャッターボタン、前後ダイヤル、モニター切換レバーのみ操作できます。その他のボタンは操作が禁止されます。
 + サブモニター有効	ロック中は、シャッターボタン、前後ダイヤル、モニター切換レバーの他、サブモニター横のボタン (🔍、📷、ISO、🔧、MODE) が操作できます。その他のボタンは操作が禁止されます。

LCDオフとオートパワーオフ

sd Quattro H はバッテリーの消耗を抑えるために、ある一定の時間操作しない状態が続くと、自動的に液晶モニターを OFF にする「LCD オフ」と、電源を OFF にする「オートパワーオフ」の機能を備えています。

LCD オフとは

ある一定の時間操作しない状態が続いたとき、バッテリーの消耗を抑えるため、自動的に液晶モニターのバックライトを OFF にします。LCD オフ中は、カメラの電源は ON の状態ですので、各ボタンは通常通り操作可能です。シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

オートパワーオフとは

LCD オフ中にも操作が行われなかったときに、より電池の消耗を抑えるため、自動的にカメラの電源を OFF にします。オートパワーオフ中は、各ボタンは機能しません。シャッターボタンを半押しすると、オートパワーオフが解除されます。

「 カメラ設定」(P.31) → 「**LCD オフ**」および「**オートパワーオフ**」より設定してください。

LCD オフ

切	1 分 (初期設定)
10 秒	5 分
30 秒	10 分

オートパワーオフ

切	5 分 (初期設定)
30 秒	10 分
1 分	

メ モ

- 「**LCD オフ**」の「切」は自動的に消灯しなくなる設定です。
- 「**オートパワーオフ**」の「切」は自動的に電源が切れなくなる設定です。

ご注意 !!

- 「**LCD オフ**」の設定は、「**オートパワーオフ**」の設定よりも長い時間を設定することはできません。例えば「**LCD オフ**」を「**5 分**」、「**オートパワーオフ**」を「**1 分**」に設定した場合、「**LCD オフ**」の設定時間が自動的に「**1 分**」に変更されます。

ECOモード

操作しない時間が 10 秒間続くと、液晶モニターの明るさとフレームレートを落としてバッテリーの消耗を抑える ECO モードを備えています。

「 カメラ設定」(P.31) → 「ECO モード」より設定してください。

切 (初期設定)	通常モードに設定します。
入	ECO モードに設定します。

モニターの明るさを調整する

状況に合わせ、モニターの明るさを個別に調整することができます。

1

「 カメラ設定」(P.31) → 「LCD の明るさ」より、設定を変更したいモニターを選びます。

メインモニターの明るさ 	ファインダーの明るさ 
サブモニターの明るさ 	



2

選んだモニターが表示されている状態で、 ボタンで見やすい明るさに調整し、 ボタンで確定します。

- **AUTO** は露出の情報をもとに、見やすい明るさに自動調整されます。

音声設定

AF 合焦音とセルフタイマーの音量を調節できます。

音声設定は「 カメラ設定」(P.31) → 「音声」より行います。

AF 合焦音	タイマー音
--------	-------

音量を小さくしたい場合は **◀** ボタン、音量を大きくしたい場合は **▶** ボタンを押して、**OK** ボタンで確定します。

- 音量は 0～5 の 6 段階で設定できます。
- 0 は音を鳴らさない設定です。
- 3 が初期設定です。

パワーグリップPG-41 の設定

パワーグリップ PG-41（別売）の動作に関する設定や、**FUNC** ボタンに割り当てる機能の設定をします。

FUNC ボタンの機能

FUNC ボタンに割り当てる機能を変更することができます。

「 **カメラ設定**」(P.31) → 「**PG-41 設定**」 → 「**FUNC ボタンの機能**」より設定します。

露出補正 (P.88)	測光モード (P.85)
ISO 感度 (P.76) (初期設定)	撮影モード (P.50)

横位置時自動ボタンロック

横位置撮影のとき、パワーグリップ PG-41 のシャッターボタン、その他のボタン、および前後ダイヤルの操作を自動的にロックし、誤操作を防ぐことができます。

「 **カメラ設定**」(P.31) → 「**PG-41 設定**」 → 「**横位置時自動ボタンロック**」より「**入**」を選びます。

ご注意!!

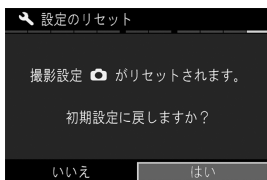
- カメラを斜めに構えたり、上向き、下向きで撮影した場合、自動ロックが正しく機能しない場合があります。

設定の初期化

カメラの設定を初期の設定に戻すことができます。

「 **カメラ設定**」(P.31) → 「**設定のリセット**」より初期化を行います。

「 **撮影設定**」(青いタブ)の項目がすべて初期設定に戻ります。



「**設定のリセット**」画面で   ボタンを押し、「はい」を選択して  ボタンを押します。

初期化を中止したい場合は   ボタンを押して「いいえ」を選択して  ボタンを押します。

- その他の項目も含めてリセットしたい場合は、工場出荷状態に戻す必要があります(日付時刻の設定はリセットされません)。

「**設定のリセット**」画面で  ボタンを押すと、「工場出荷状態に戻しますか？」と確認メッセージが切り替わります。

工場出荷状態に戻すには、  ボタンを押して「はい」を選択して  ボタンを押します。

中止したい場合は   ボタンを押して「いいえ」を選択して  ボタンを押します。

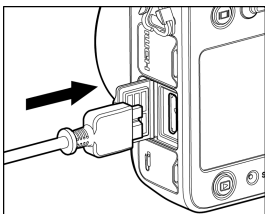
パソコン、テレビと接続する

パソコンと接続する

カメラを USB ケーブルでパソコンと接続し、画像を転送したり、パソコンからリモート撮影や設定変更を行うことができます。

- パソコンに接続する前に、目的に応じてカメラの「**USB モード**」を変更してください。

マスのストレージ (初期設定)	カメラ内のカードから画像を転送するときは「 マスストレージ 」を選択します。パソコンに接続するとカメラがリムーバブルディスク (デバイス) として認識されます。
カメラコントロール	パソコンにインストールされた SIGMA Capture Pro からカメラを操作するときは「 カメラコントロール 」を選択します。



1

「 **カメラ設定**」(P.31) → 「**USB モード**」で、いずれかのモードに設定し、カメラの電源スイッチを一旦 **OFF** にします。

2

付属の専用 USB ケーブルで、カメラとパソコンを接続し、カメラの電源スイッチを **ON** にします。

- 長時間使用する場合には、AC アダプター (別売) のご使用をおすすめします。

パソコンに画像を転送する

カメラ内のカードに記録された画像をパソコンに転送することができます。

- **SIGMA Photo Pro** 上で画像の転送ができます。詳細は **SIGMA Photo Pro** のヘルプをご覧ください。
- カメラがリムーバブルディスク（デバイス）としてパソコンに認識されますので、**SIGMA Photo Pro** を使用しなくても、使い慣れた方法で画像を転送できます。

警告 !!

- パソコンとカメラを接続しているときに、パソコンがスリープ状態になると、転送中のデータが壊れるおそれがあります。パソコンがスリープ状態に入らない設定にしてください。
- パソコンとの接続には、付属の専用ケーブル以外は使用しないでください。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。
- USB 接続中は、カメラのシャッターボタンと液晶モニターは使用できません。
- USB 接続中は、カメラのオートパワーオフの機能が働きません。

パソコンでカメラを操作する

sd Quattro H はカメラコントロールソフトウェア **SIGMA Capture Pro** を使用して、以下のようなリモート操作をすることができます。

- パソコンからカメラを制御して撮影することができます。
- 撮影後すぐに画像をパソコンに転送することができます。
- 撮影に関するカメラの設定をパソコンから変更することができます。
- **SIGMA Capture Pro** の詳細や使用方法是 **SIGMA Capture Pro** のヘルプをご参照ください。
- **SIGMA Capture Pro** は下記の弊社ウェブサイトより無料ダウンロードいただけます。<http://www.sigma-global.com>

テレビと接続する

カメラを市販の HDMI ケーブルでテレビなどと接続し、記録した画像をテレビで鑑賞したり、テレビで表示した画像を見ながら撮影することができます。

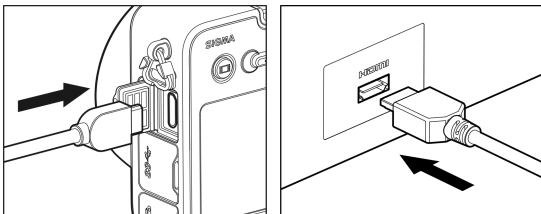
- HDMI 端子（タイプ C）を備えた市販の HDMI ケーブルをご用意ください。
- テレビに表示される画像は、カメラのファインダーに表示される画像と同等です。表示されるアイコン類は「 カメラ設定」(P.31) → 「ファインダー  モード設定」で設定されたモードに準じます。

1

カメラとテレビの電源を **OFF** にします。

2

HDMI ケーブルで、カメラとテレビを接続し、カメラとテレビの電源を **ON** にします。



- 長時間使用する場合には、AC アダプター（別売）のご使用をおすすめします。

ご注意 !!

- テレビの入力切換えについては、テレビの使用説明書をご参照ください。
- テレビによっては、画像の一部が欠けて見えることがあります。

参考資料

別売アクセサリーの紹介や、カメラのスペックなどを説明します。

別売アクセサリー

パワーグリップ PG-41

sd Quattro H のバッテリーパワーをアップする専用のパワーグリップ。専用バッテリーを最大 2 本収納可能。sd Quattro H 本体と合わせると単体使用時の約 3 倍の撮影が可能です。パワーグリップに 2 つのコマンドダイヤル、AF/AEL ボタン、FUNC ボタンを装備し、縦位置撮影時にも横位置撮影同様優れた操作性を実現。ホールディング性も良好です。

エレクトロニックフラッシュ EF-630 (FOR SIGMA)

最大ガイドナンバー63 (ISO100・m) の大光量オートズームフラッシュです。S-TTL 方式による自動調光撮影や、マルチ発光撮影などの多彩なフラッシュ撮影が可能となります。

AC アダプター SAC-7

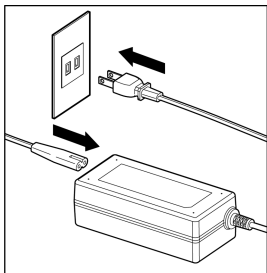
家庭用電源で sd Quattro H を使用するための専用 AC アダプターです。(AC アダプターとカメラを接続する DC コネクターCN-31 が付属されています。) 屋内で大量に撮影する場合や、画像の転送時等にご使用ください。詳しくは P.154 をご覧ください。

ケーブルリリーススイッチ CR-31

カメラのケーブルリリース端子に接続して、カメラに触れずにシャッターを切ることができます。カメラを三脚に固定し、カメラから離れてシャッターを切りたい場合や、スローシャッターを切りたい場合などに便利です。(ケーブルの長さ: 約 1m)

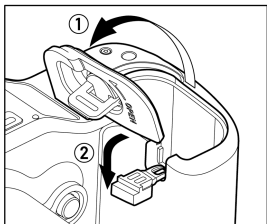
家庭用電源の使い方（別売）

別売りの AC アダプター（SAC-7）と DC コネクター（CN-31）を使用して、家庭用電源でカメラを動作させることができます。長時間の撮影、画像の再生、パソコンとの接続時等におすすめします。



1

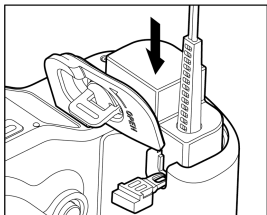
図のように AC ケーブルを AC アダプターとコンセントに接続します。



2

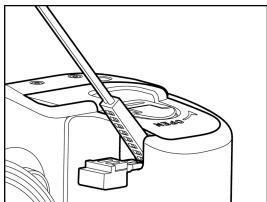
バッテリー室ドアを開き、図のように DC コネクターカバーを開きます。

DC コネクターカバーを強く引っ張ると本体から外れてしまうのでご注意ください。



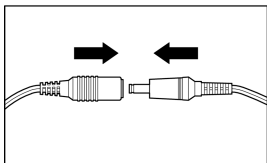
3

図のように DC コネクターをロックされるまで押し込みます。



4

DC コネクターのコードを挟み込まないように注意しながら、バッテリー室ドアを閉めます。

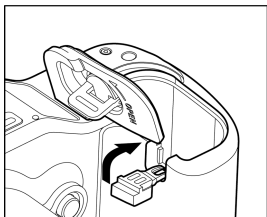


5

AC アダプターのプラグと DC コネクターのジャックを接続します。

警告 !!

- アクセスランプが点灯しているときには、絶対にバッテリー室ドアを開けないでください。電源が落ち、書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。
- 使い終わったらカメラの電源を OFF にして、プラグをコンセントから抜いてください。



DC コネクターを取り外したあとは、図のように DC コネクターカバーを閉めてください。

お手入れについて

- ダストプロテクターの清掃は、市販のプロワーでホコリを吹き飛ばすだけにしてください。プロワーブラシのブラシの部分はキズが付きますので使わないでください。万一、ダストプロテクターのガラス部分に指紋などがついてしまった場合は、市販のプロワーでホコリを吹き飛ばしたあとに、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。また、ダストプロテクターは非常に薄くてできています。拭きとりのときに、力を入れすぎると破損する恐れがありますのでご注意ください。
- ボディやレンズのお手入れにシンナーやベンジンなどの有機溶剤は表面の仕上げをいためますので絶対に使用しないでください。ボディやレンズの鏡筒部は柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。レンズ面についたほこり等は市販のプロワーで軽く吹き飛ばす程度にし、指紋などがついてしまった場合は市販のレンズクリーナーを使用して慎重に拭きとってください。
- 注油の必要はありません。注油は逆効果の恐れがありますので絶対にしないでください。
- 液晶モニターにほこりやゴミ等が付着した場合は、市販のプロワーで吹き飛ばしてください。汚れがひどいときは柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。

保管について

- 長期間ご使用にならないときは、液漏れによるカメラの破損を防ぐため、バッテリーを取り出して保管してください。
- カビや錆の発生を防ぐため、風通しのよい乾燥した場所に保管してください。カメラを乾燥剤といっしょにビニール袋にいれて保管するのも有効な手段です。ただし乾燥剤は有効期限がありますので、ときどき交換してください。ナフタリン等の防虫剤はカメラに悪影響を与えますのでいっしょに保管しないでください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターはその特性上、一部の画素に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また、記録されるデータには影響ありません。予めご了承ください。

- 液晶の特性により、低温下で表示の反応が遅くなることがあります。また、高温下で表示が黒くなることがありますが、常温になれば正常に戻ります。

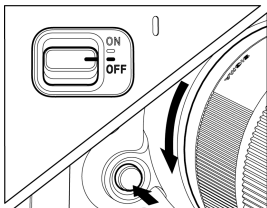
撮像素子のクリーニングについて

sd Quattro H はボディ内部にホコリの侵入を防ぐために、ダストプロテクターを装備していますが、まれに撮像素子にホコリが付着し、撮影画面に写り込むことがあります。その場合は、以下の要領で撮像素子のクリーニングを行ってください。

- 非常に慎重な作業が必要になりますので、極力、弊社営業所にクリーニングをお申し付けください。

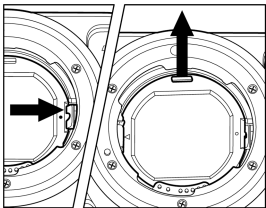
警告 !!

- 撮像素子はカメラの心臓部ともいえる重要な部分です。最善の注意をはらって作業をしてください。
- スプレー式のエアクリーナーは使用しないでください。噴射する角度によっては液体が噴き出し、撮像素子を傷める可能性があります。
- 清掃後は確実にダストプロテクターを取り付けてください。取り付けが不完全な場合、ダストプロテクターが外れ、カメラやレンズを破損することがあります。
- ブロワーは、必ずブラシのついていないものを使用してください。ブラシ付のものは撮像素子にキズをつける恐れがあります。



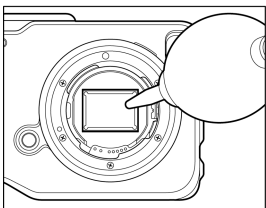
1

電源スイッチが OFF になっているのを確認し、レンズを外します。



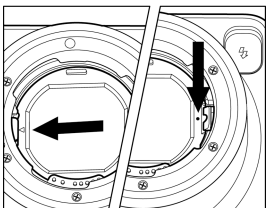
2

市販のピンセットでダストプロテクター着脱レバーをスライドし、上部の突起をつまんでダストプロテクターを外します。（ガラス部分に触れないように注意してください。）



3

ブロワーで慎重に撮像素子のホコリを吹き飛ばしてください。



4

ダストプロテクターのガラス部分にホコリが付いていないことを確認し、◀印側から本体側の突起にはめ込んだ後、●印部を指でパチッと音が鳴るまで押して固定します。

- 清掃してもホコリが取りきれない場合は、弊社営業所にご相談ください。
万一、ダストプロテクターのガラス部分に指紋が付いてしまった場合は、ブロワーでほこりを吹き飛ばした後に、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。

困ったときは

カメラの調子が悪かったり写真がうまく写らなかった場合、故障と思われる前に次の点を確認してください。

液晶モニターになんの表示も出ない。

バッテリーが消耗している。

- ▶ 充電されたバッテリーと交換してください。(P.22 - 25)

表示モードが LCD OFF モードになっている。

- ▶  ボタンを押して液晶モニターを表示させてください。(P.42)

LCD オフ状態になっている。

- ▶ シャッターボタンを半押しする、もしくはいずれかのボタンを押してください。(P.144)

シャッターが切れない。

データ処理中（ビジー状態）になっている。

- ▶ 処理が終わるまでお待ちください。

カードの使用容量がいっぱいになっている。

- ▶ 新しいカードを入れるか、いらない画像を消去して容量を空けてください。(P.117 - 118)

オートフォーカスが動かない。

レンズのフォーカスモードスイッチが M になっている。

- ▶ レンズのフォーカスモードスイッチを AF にしてください。(P.57)

レンズがきちんと取り付けられていない。

- ▶ 正しくレンズを取り付けてください。(P.26)

「半押し AF-ON」の設定が「切」になっている。

- ▶ 「半押し AF-ON」の設定を「入」にしてください。(P.63)

ご使用のレンズがオートフォーカスに対応していない。

- ▶ 弊社 WEB サイトにて、対応レンズかご確認ください。(P.27)

電源が勝手に切れる。

オートパワーオフが働いている。

- ▶ バッテリーの消耗を抑えるためにオートパワーオフ機能が働いていますが、不都合がある場合は、セットアップメニューでオートパワーオフの設定を「切」に設定してください。(P.144)

撮影・記録ができない。

カードの使用容量がいっぱいになっている。

- ▶ 新しいカードを入れるか、いらぬ画像を消去して容量を空けてください。(P.117 - 118)

バッテリーが消耗している。

- ▶ 充電されたバッテリーと交換してください。(P.22 - 25)

カードにロックがかかっている。

- ▶ カードのロックを解除してください。(P.12)

カードのデータが壊れている。

- ▶ カードに必要なデータが残っている場合にはパソコンにバックアップをとった後、カメラでカードを初期化してください。(P.46)

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる。

ゴミや汚れが付いている。

- ▶ ブロワーで吹き飛ばしたり、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。(P.156)

液晶モニターが劣化している。

- ▶ お買い上げの販売店、もしくは弊社カスタマーサポートにご相談ください。

画像がボケて写っている。

ピントが合わないままシャッターを切っている。

- ▶ シャッターを半押しして、フォーカスフレームが緑色になったのを確認してシャッターを切ってください。(P.57)

レンズのフォーカスモードスイッチが M になっている。

- ▶ レンズのフォーカスモードスイッチを AF にしてください。(P.57)

手ブレをおこしている。

- ▶ フラッシュ撮影をするか、三脚等を利用してカメラを固定して撮影してください。(P.104)

画像の一部に白または色の付いたドット状やモヤ状のものが写る

カメラを向けた方向に強い光源があり、画像にゴーストやフレアが写っている。

- ▶ 強い光源の影響により、ゴーストやフレアが発生する場合があります。構図の変更や絞りを変化させ撮影してください。また、斜め方向からの不要な光はレンズフードのご使用で軽減させることができます。

画像を消去できない。

画像にロックがかかっている。

- ▶ ロックを解除してください。(P.120 - 122)

カードにロックがかかっている。

- ▶ カードのロックを解除してください。(P.12)

撮影年月日・時間が正しく表示されない。

日付・時間が正しく設定されていない。

- ▶ 日付・時間を正しく設定してください。(P.29)

エラーコードが表示される

「エラー No.01」:

内部にエラーが発生したため撮影を続行できません。

- ▶ 弊社カスタマーサポートにご相談ください。

主な仕様

形式	レンズ交換式デジタルカメラ
使用レンズ	シグマ SA マウント交換レンズ
レンズマウント	シグマ SA バヨネットマウント
実撮影画角	レンズ表記の約 1.3 倍の焦点距離に相当 (35mm カメラ換算)
撮像素子	FOVEON X3 ダイレクトイメージセンサー (CMOS)
撮像素子サイズ	26.7×17.9mm
画素数	有効画素数: 約 38.6MP (T(トップ): 6,200×4,152 / M(ミドル): 3,100×2,076 / B(ボトム): 3,100×2,076) 総画素数: 約 44.7MP
記録媒体	SD / SDHC / SDXC メモリーカード
記録フォーマット	Exif 2.3 準拠、DCF 2.0 準拠、DPOF 準拠
記録方式	ロスレス圧縮 RAW 14-bit (X3F/X3I)、 DNG (無圧縮 RAW 12-bit)、JPEG (Exif 2.3)、 RAW (X3F) + JPEG
画像サイズ (3:2 時) (記録画素数)	S-HI(JPEG のみ): 8,768×5,840 画素、 HIGH: 6,192×4,128 画素、LOW: 3,088×2,056 画素、 S-LO(JPEG のみ): 1,920×1,280 画素
画質モード (JPEG)	Fine、Normal、Basic
ホワイトバランス	12 種 (オート、オート(色残し)、晴れ、日陰、くもり、 白熱電球、蛍光灯、フラッシュ、色温度指定、カスタム 1、 カスタム 2、カスタム 3)
カラーモード	11 種 (スタンダード、ビビッド、ニュートラル、ポート レート、風景、シネマ、サンセットレッド、フォレスト グリーン、FOV クラシックブルー、FOV クラシックイ エロー、モノクローム)
ISO 感度 (推奨露光指数)	ISO 100~ISO 6400 (1/3 段ステップで設定可能) AUTO: ISO100~ISO 6400 の範囲で上限、下限の設定が 可能。フラッシュ撮影時は下限設定時により変化
オートフォーカス	位相差検出方式 + コントラスト検出方式
測距点	9 点選択モード、自由移動モード (3 段階にフォーカス フレームの大きさが変更可能)、顔優先 AF モード
測距範囲	-1EV ~ 18EV (ISO100 F1.4)
フォーカスモード	AF-S (シングル)、AF-C (連続、動体予測機能付)、マ ニュアル

フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる (AEL/AF ボタンによる AF ロック可)
ファインダー ファインダー視野率 ファインダー倍率	電子式ビューファインダー(約 236 万ドットカラー液晶) 100% 約 0.96 倍 (50mm F1.4、 ∞ 、 -1m^{-1} 時)
アイポイント 視度補正範囲	レンズ最終面から約 21mm (-1m^{-1} 時) 約 -4m^{-1} ~ 約 $+2\text{m}^{-1}$
測光方式 測光範囲	評価測光、中央部重点平均測光、スポット測光 0 ~ 17EV (50mm F1.4 : ISO100)
露出制御方式 露出補正	(P) プログラム AE、(A) 絞り優先 AE、 (S) シャッター優先 AE、(M) マニュアル $\pm 5\text{EV}$ (1/3 ステップ)
AE ロック オートブラケット	シャッターボタン半押しによる (AEL/AF ボタンによる AE ロック可) 3 コマ/5 コマ段階露出 $\pm 3\text{EV}$ (1/3 ステップ、適正 $\rightarrow$ アンダー $\rightarrow$ オーバー) (順序変更可)
シャッター シャッタースピード	電子制御縦走行方式フォーカルプレーンシャッター 1/4000~30 秒、バルブ (30 秒まで) (拡張モード設定時は 120 秒まで) フラッシュ同調速度 1/180 秒
外部フラッシュ ドライブモード	ホットシュー (X 接点、専用フラッシュ連動接点付) シンクロ端子あり 1 コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー (2/10 秒) インターバルタイマー
液晶モニター 表示言語	約 162 万ドット 3.0 型 TFT カラー液晶 17 言語 (英語・日本語/ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/簡体中文/繁体中文/韓国語/ロシア語/オランダ語/ポーランド語/ポルトガル語/デンマーク語/スウェーデン語/ノルウェー語/フィンランド語)
インターフェース 電源	USB 端子 (USB 3.0・マイクロ B)、HDMI 端子 (ミニ HDMI タイプ C)、リリース専用端子 専用リチウム充電電池(Li-ion Battery BP-61)、 ACアダプター-SAC-7 (別売) (DC コネクター-CN-31 付属)
撮影可能枚数 大きさ 質量	約 187 枚 (Li-ion Battery BP-61 使用、23°C時) CIPA 規格による 147mm (幅) $\times$ 95.1mm (高さ) $\times$ 90.8mm (奥行) 630g (バッテリー、カード除く)

製品のお問い合わせは…

シグマ カスタマーサポート部

フリーコール : **0120-9977-88**

(携帯電話・PHS をご利用の方は 044-989-7436 にご連絡ください)

サポート・インターネットページアドレス

<http://www.sigma-photo.co.jp/support/index.htm>

株式会社シグマ

本 社

〒215-8530 神奈川県川崎市麻生区栗木 2 丁目 4 番 16 号

☎ (044) 989-7430 (代) FAX: (044) 989-7451

インターネットホームページアドレス <http://www.sigma-photo.co.jp>